

C5000 シリーズ

WebControl

取扱説明書

Ver. 1.1.8

COSMIC

株式会社コスミックエンジニアリング

目次

1. 概要	1
2. システム要件	2
2.1. 対応ブラウザ	2
2.2. ネットワーク環境	2
3. 起動	3
3.1. C5000 WEB 監視ページ.....	3
3.2. モジュール一覧ページ	4
3.3. 閲覧モードと設定モード	6
3.3.1. 設定モードへの変更方法(パスワードなし)	6
3.3.2. 設定モードへの変更方法(パスワードあり)	6
4. WEBCONTROL 各種設定	7
4.1. ネットワーク設定	8
4.2. DNS 設定	9
4.3. 時刻設定.....	10
4.4. メール設定	13
4.4.1. メール認証.....	14
4.4.2. メール送信例.....	15
4.5. 再起動設定	17
5. メニュー詳細	18
5.1. ホーム	18
5.2. モジュール一覧.....	19
5.2.1. 別名設定例.....	21
5.2.2. 複数列表示.....	22
5.3. ウォッチリスト.....	23
5.3.1. ウォッチ項目の登録.....	24
5.3.2. ウォッチリスト表示	26
5.4. イベントログ.....	28
5.4.1. イベント数表示とページ操作.....	29
5.4.2. 表示行数の設定	30
5.4.3. フィルタリング設定	31
5.4.4. フィルタリング設定 項目	33
5.4.5. フィルタリング設定 画面表示.....	35

5.4.6.	フィルタリング表示解除.....	36
5.4.7.	イベントログの保存.....	37
5.4.8.	イベントログのクリア.....	38
5.5.	システム設定.....	39
5.5.1.	全般タブ.....	39
5.5.2.	アラート設定タブ.....	42
5.5.3.	アラート音登録タブ.....	44
5.5.4.	その他タブ.....	52
5.6.	アップデート.....	56
5.7.	パスワード設定.....	63
6.	モジュールの設定確認・変更.....	64
6.1.	パラメータ設定.....	64
6.2.	アラート設定.....	65
7.	お問い合わせ.....	66
図番号一覧		
図 2-1	Microsoft Edge バージョン情報確認.....	2
図 3-1	WebControl 起動方法.....	3
図 3-2	ホーム画面.....	3
図 3-3	モジュール一覧(バージョン 1.7.0 以降).....	4
図 3-4	モジュール一覧(バージョン 1.7.0 より前).....	5
図 3-5	TLC5001 装着例.....	5
図 4-1	ネットワーク設定一覧.....	8
図 4-2	DNS 設定例.....	9
図 4-3	時刻設定例.....	10
図 4-4	メール設定例.....	13
図 4-5	メール送信例.....	15
図 4-6	再起動手順 1.....	17
図 4-7	再起動手順 2.....	17
図 5-1	メニューアイコンクリック画面.....	18
図 5-2	ホーム画面.....	18
図 5-3	モジュール一覧選択.....	19
図 5-4	モジュール一覧 (閲覧モード).....	20

図 5-5 モジュール一覧 (設定モード).....	20
図 5-6 モジュール別名の設定.....	21
図 5-7 モジュール別名の確認.....	21
図 5-8 1 列表示.....	22
図 5-9 複数列表示.....	22
図 5-10 ウォッチリスト選択.....	23
図 5-11 ウォッチリスト登録例 (DSG5002).....	24
図 5-12 ウォッチリスト登録例 (DFS5001).....	25
図 5-13 ウォッチリスト表示.....	26
図 5-14 表示カラム数 選択画面.....	27
図 5-15 ウォッチリスト表示 カラム数 2 の表示例.....	27
図 5-16 イベントログ 選択.....	28
図 5-17 イベントログ例.....	28
図 5-18 イベントログ 表示行数設定.....	30
図 5-19 イベントログ フィルタリング設定 1.....	31
図 5-20 イベントログ フィルタリング設定 2.....	32
図 5-21 イベントログ フィルタリング設定 3.....	32
図 5-22 モジュール指定 スロット番号指定画面.....	34
図 5-23 モジュール指定 モジュール名指定画面.....	34
図 5-24 フィルタリングログ 表示/非表示ボタン.....	35
図 5-25 フィルタリング表示解除 アイコン.....	36
図 5-26 イベントログの保存 アイコン.....	37
図 5-27 イベントログのクリア アイコン.....	38
図 5-28 イベントログのクリア 確認.....	38
図 5-29 システム設定 選択.....	39
図 5-30 システム設定 全般.....	39
図 5-31 システム設定変更 確認.....	40
図 5-32 初期化 確認画面.....	41
図 5-33 フレーム内部エラー 非表示.....	43
図 5-34 アラート音登録タブ.....	44
図 5-35 音声ファイルの登録 1.....	45
図 5-36 音声ファイルの登録 2.....	45
図 5-37 音声ファイルの登録 3.....	46
図 5-38 音声ファイルの一括登録 1.....	47

図 5-39 音声ファイルの一括登録 2.....	47
図 5-40 音声ファイルの一括登録 3.....	48
図 5-41 音声ファイルの一括登録 4.....	48
図 5-42 音声ファイルの削除 1.....	50
図 5-43 音声ファイルの削除確認.....	50
図 5-44 音声ファイルの全削除 1.....	51
図 5-45 音声ファイルの全削除 確認.....	51
図 5-46 システム設定の保存.....	52
図 5-47 設定の復元 1.....	53
図 5-48 設定の復元 2.....	53
図 5-49 設定の復元 3.....	54
図 5-50 設定の復元 4.....	55
図 5-51 アップデート 選択.....	56
図 5-52 アップデート モジュール選択.....	57
図 5-53 アップデート デバイス選択(boot/main).....	58
図 5-54 アップデート デバイスの選択(main0/main1).....	58
図 5-55 アップデート ファイル選択(boot/main).....	59
図 5-56 アップデート ファイル選択(main0/main1).....	59
図 5-57 アップデート ボタン.....	60
図 5-58 アップデート 進行画面.....	61
図 5-59 アップデート 完了画面.....	62
図 5-60 パスワード設定 選択.....	63
図 5-61 パスワード変更.....	63
図 6-1 アラート設定.....	65
図 6-2 モジュールパラメータの非表示.....	65

1. 概要

WebControl は、C5001/C5002/C5001-HF/C5002-H2 フレーム (以下フレームと省略)に実装されたモジュールの構成や設定の確認、変更、操作を Web ブラウザーで行うことができます。また、SNMP の TRAP 制御や TRAP の通知をブラウザーのポップアップウィンドウ・アラーム音やメール発報で行うこともできます。

《特長》

1. フレームの設定確認・変更や操作が Web ブラウザーで可能
2. フレームに実装されたモジュールの設定確認・変更や操作が Web ブラウザーで可能
3. 各モジュールの SNMP TRAP の通知／非通知を項目ごとに設定可能(※1)
4. SNMP TRAP の通知項目に関して、E-Mail 送信可能
5. TRAP 通知ごとにブラウザーのポップアップウィンドウ表示／非表示やアラーム音(※2)ON/OFF の設定が可能
6. TRAP 通知ごとにメール発報／非発報の設定が可能
7. TRAP をログに記録し閲覧およびダウンロードが可能
8. モジュールの設定データを PC に保存および復元が可能

※1 TRAP ごと個別に通知／非通知の設定ができないモジュールもあります。

※2 アラーム音は音声ファイルを再生します。音声ファイルは PC に保存します。

Windows 環境では、以下の音声ファイルに対応しています。

「.wav」,「.mp3」,「.ogg (Vorbis) 」,「.m4a (MPEG4 AAC) 」

2. システム要件

2.1. 対応ブラウザ

Google Chrome、Microsoft Edge に対応しています。その他のブラウザには対応していません。

Microsoft Edge に関しては、バージョン情報表示で「このブラウザは Chromium オープンソースプロジェクトおよび他のオープンソースソフトウェアに基づいて機能します。」と記述があるものが対象です。

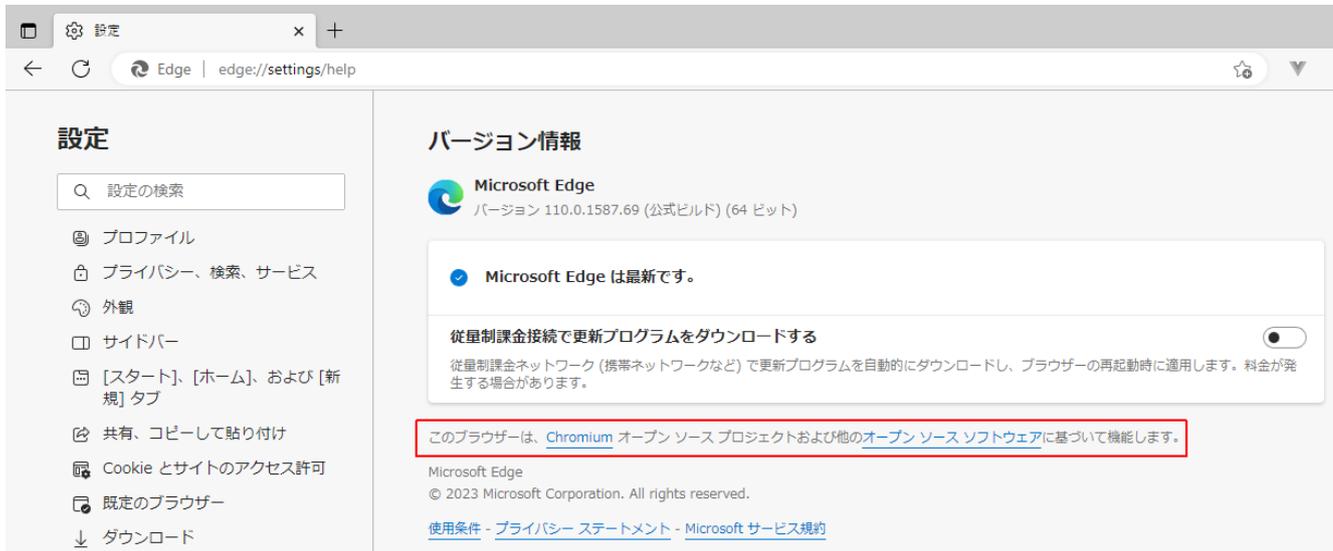


図 2-1 Microsoft Edge バージョン情報確認

2.2. ネットワーク環境

同一ネットワーク上にフレームとブラウザが動作する PC を接続します。

あるいは、別なネットワーク同士を、ルーターを介して接続しフレームと PC を接続します。

WebControl は、フレームとブラウザ間を HTTP で通信します。

メール発報機能をご使用の場合は、SMTP サーバーとの接続や、時刻同期機能をご使用の場合は、NTP サーバーへの接続が必要です。

Web サーバー	HTTP 1.0/1.1 ポート番号: 80 固定
メール発報(SMTP)	SMTP に対応するサーバー SMTP 認証 (AUTH CRAM-MD5、AUTH LOGIN、AUTH PLAIN) ポート番号: 25 変更可能
時刻同期(NTP)	NTP に対応するサーバー ポート番号: 123 固定

※上記は推奨環境です。動作を保証するものではありません。

ご使用になる機材等により接続できない場合もございます。あらかじめご了承ください。

3. 起動

対応ブラウザで IP アドレスを入力して、WebControl に接続します。

フレームの IP アドレス出荷時設定は、「192.168.0.10」です。

IP 設定の変更は、4.1 ネットワーク設定の「再起動後の IP アドレス」、「再起動後のサブネットマスク」、「再起動後のゲートウェイアドレス」等を変更後、再起動してください。

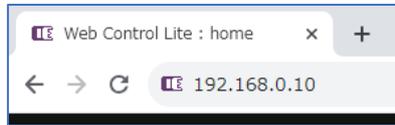


図 3-1 WebControl 起動方法

3.1. C5000 Web 監視ページ

WebControl に接続後、「C5000 Web 監視ページ」をクリックします。

図の例では WebControl バージョンは右上の「1.7.0」です。



図 3-2 ホーム画面

3.2. モジュール一覧ページ

モジュール一覧画面を表示します。



図 3-3 モジュール一覧(バージョン 1.7.0 以降)

- (1)
フレームの-slot番号で、モジュールが挿入されている-slot番号を緑で表示します。
緑表示にマウスカーソルを重ねると、モジュール型名および別名を表示します。
アラームやエラーを検出しているモジュールは赤で表示します。
WebControl 起動中に抜けたモジュールは黄色で表示します。
- (2)
フレームに挿入されているモジュール一覧です。WebControl バージョン 1.7.0 以降では図 3-3 のようにモジュールのステータスを一覧表示します。それより前のバージョンでは図 3-4 のようにモジュール名の一覧のみです。
slot番号の緑表示をクリックすると、各モジュールのパラメータ画面に遷移します。
ネットワーク設定を行うためには、(1)Controller、あるいは(2)の C5002 Built-In Controller をクリックします。



図 3-4 モジュール一覧(バージョン 1.7.0 より前)

TLC5001 利用の場合は、TLC5001 と表示されているモジュールを選択してください。

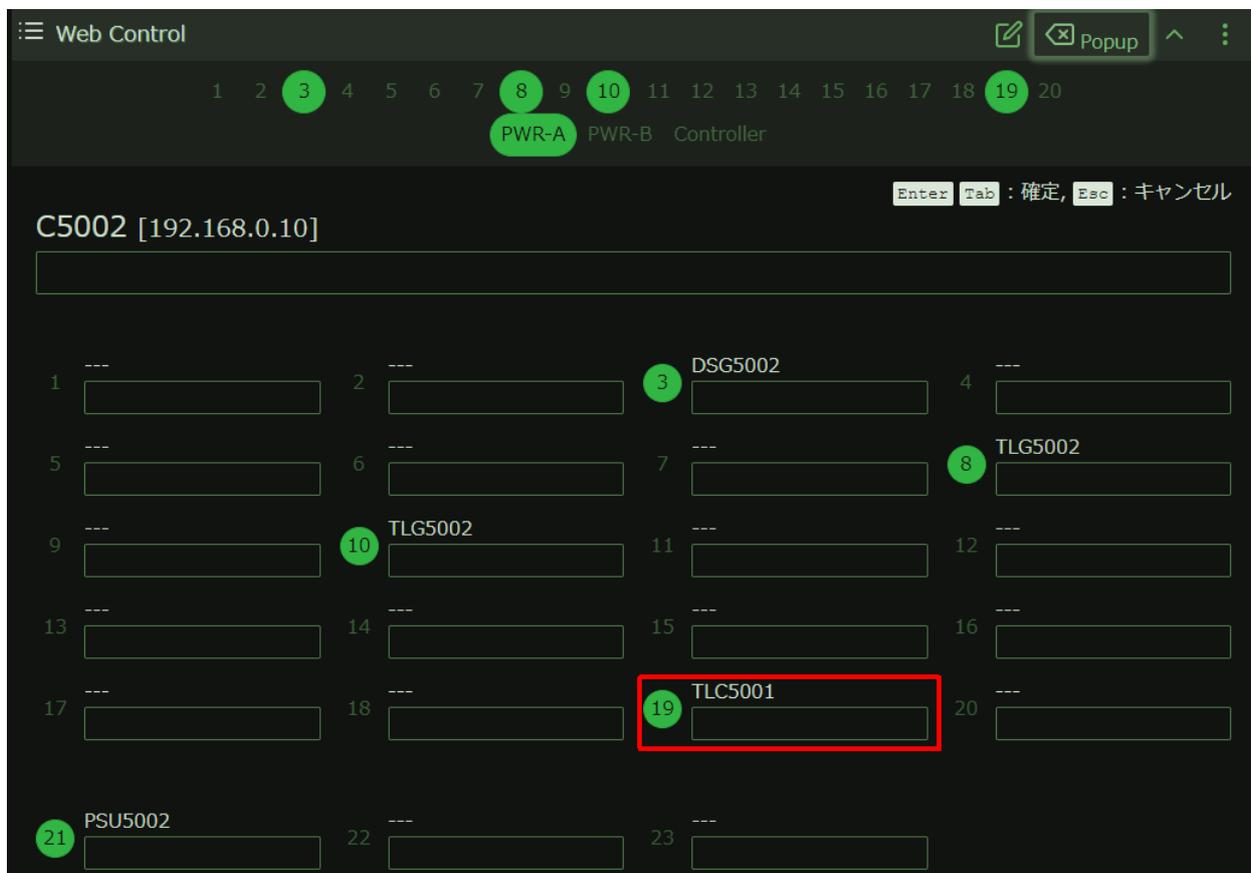


図 3-5 TLC5001 装着例

3.3. 閲覧モードと設定モード

WebControl には、各モジュールの設定値を確認する「閲覧モード」と設定値を変更できる「設定モード」があります。起動時は閲覧モードです。閲覧モード、設定モードの変更はそれぞれの鍵アイコンをクリックします。



閲覧モード時のツールバーの鍵アイコン



設定モード時のツールバーの鍵アイコン
設定値を変更することが可能です。

WebControl バージョン 1.4.0 以前の WebControl では設定モードへの変更にパスワードが必要です。

工場出荷時のパスワードは、「c5000-web-admin」です。

WebControl バージョン 1.6.0 以降はユーザーがパスワードを設定した場合、閲覧モードから設定モードに変更する際パスワード入力が必要です。

※WebControl バージョンは 図 3-2 ホーム画面の右上に表示されています。

※パスワードの設定やりセットについては 5.7 パスワード設定をご覧ください。

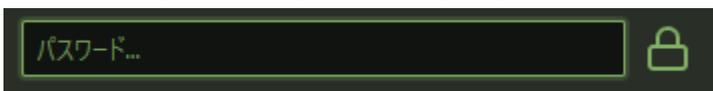
3.3.1. 設定モードへの変更方法(パスワードなし)

I .鍵アイコンをクリックすると、ロックが解除されます。

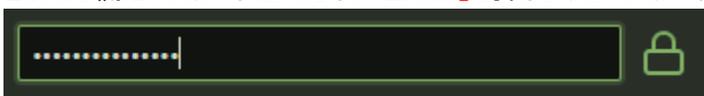


3.3.2. 設定モードへの変更方法(パスワードあり)

I .鍵アイコンをクリックすると、入力欄が表示されます。



II .入力欄にパスワードを入力し、「Enter」を押します。パスワードが正しい場合、ロックが解除され設定モードになります。



4. WebControl 各種設定

WebControl を使用するために、ネットワーク設定が必要になります。

デフォルト設定は以下のものになっているため、ユーザー環境に合わせて設定をお願いします。

設定を変更する場合、「設定モード」にしてから変更してください。

IP アドレス	192.168.0.10
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.0.100
SNMP トラップ送信先 1	192.168.0.200

※IP アドレス、DNS、SNTP トラップ送信先 1～6、NTP サーバーの設定を変更した場合、再起動が必要になります。

※再起動は電源の切断・投入か、4.5 再起動設定で行います。

4.1. ネットワーク設定

設定モードの場合、現在の設定が白地に黒文字、再起動後の設定が黒地に白文字で表示されています。

設定を変更する場合、「再起動後の～」の項目を変更し、変更完了後、4.5 再起動設定で内蔵コントローラを再起動してください。

現在の項目	現在の値	再起動後の項目	再起動後の値
現在のMACアドレス	00:0d:c7:43:00:00	現在のIPアドレス	192.168.0.10
現在の専用アプリ通信ポート	12345	現在のサブネットマスク	255.255.255.0
現在のMIB-2 SysName (SNMP)	3-2-11, Asahi-ga-Oka, Hino, Tokyo 191-0065, JAPAN	現在のMIB-2 SysName (SNMP)	C5002
現在のTrap送信先アドレス1 (SNMP)	192.168.0.200	現在のMIB-2 SysContact (SNMP)	http://www.cosmic-eng.co.jp
現在のTrap送信先アドレス2 (SNMP)	0.0.0.0	現在のMIB-2 SysLocation (SNMP)	3-2-11, Asahi-ga-Oka, Hino, Tokyo 191-0065, JAPAN
現在のTrap送信先アドレス3 (SNMP)	0.0.0.0	現在のTrap送信先アドレス1 (SNMP)	192.168.0.200
現在のTrap送信先アドレス4 (SNMP)	0.0.0.0	現在のTrap送信先アドレス2 (SNMP)	0.0.0.0
現在のTrap送信先アドレス5 (SNMP)	0.0.0.0	現在のTrap送信先アドレス3 (SNMP)	0.0.0.0
現在のTrap送信先アドレス6 (SNMP)	0.0.0.0	現在のTrap送信先アドレス4 (SNMP)	0.0.0.0
再起動後のサブネットマスク	255.255.255.0	再起動後のTrap送信先アドレス5 (SNMP)	0.0.0.0
再起動後のMIB-2 SysName (SNMP)	C5002	再起動後のTrap送信先アドレス6 (SNMP)	0.0.0.0
再起動後のMIB-2 SysContact (SNMP)	http://www.cosmic-eng.co.jp	再起動後のIPアドレス	192.168.0.10
再起動後のMIB-2 SysLocation (SNMP)	3-2-11, Asahi-ga-Oka, Hino, Tokyo 191-0065, JAPAN	再起動後の専用アプリ通信ポート	12345
再起動後のTrap送信先アドレス1 (SNMP)	192.168.0.200	再起動後のコミュニティ名 (SNMP)	public
再起動後のTrap送信先アドレス2 (SNMP)	0.0.0.0	再起動後のMIB-2 SysName (SNMP)	C5002
再起動後のTrap送信先アドレス3 (SNMP)	0.0.0.0	再起動後のMIB-2 SysContact (SNMP)	http://www.cosmic-eng.co.jp
再起動後のTrap送信先アドレス4 (SNMP)	0.0.0.0	再起動後のMIB-2 SysLocation (SNMP)	3-2-11, Asahi-ga-Oka, Hino, Tokyo 191-0065, JAPAN
再起動後のTrap送信先アドレス5 (SNMP)	0.0.0.0	再起動後のTrap送信先アドレス1 (SNMP)	192.168.0.200
再起動後のTrap送信先アドレス6 (SNMP)	0.0.0.0	再起動後のTrap送信先アドレス2 (SNMP)	0.0.0.0
		再起動後のTrap送信先アドレス3 (SNMP)	0.0.0.0
		再起動後のTrap送信先アドレス4 (SNMP)	0.0.0.0
		再起動後のTrap送信先アドレス5 (SNMP)	0.0.0.0
		再起動後のTrap送信先アドレス6 (SNMP)	0.0.0.0

図 4-1 ネットワーク設定一覧

機能	初期値	説明
IP アドレス	192.168.0.10	IP アドレス(IPv4)を設定します。
サブネットマスク	255.255.255.0	ネットマスクを設定します。
ゲートウェイアドレス	192.168.0.100	ゲートウェイアドレスを設定します。
専用アプリ通信ポート	12345	TLG5002 など専用アプリが使用するポート番号を設定します。
コミュニティ名(SNMP)	public	コミュニティ名を設定します。
MIB-2 SysName (SNMP)	C5002	機器名称を設定します。
MIB-2 SysContact (SNMP)	http://cosmic-eng.co.jp	SNMP 管理者の連絡先を設定します。
MIB-2 SysLocation (SNMP)	3-2-11, Asahi-ga-Oka, Hino, Tokyo 191-0065, JAPAN	機器の設置場所を設定します。
Trap 送信先アドレス 1 (SNMP)	192.168.0.200	Trap 送信先アドレス 1(IPv4)を設定します。 送信先を指定しない場合、「0.0.0.0」を入力してください。
Trap 送信先アドレス 2 (SNMP)	0.0.0.0	↑
Trap 送信先アドレス 3 (SNMP)	0.0.0.0	↑
Trap 送信先アドレス 4 (SNMP)	0.0.0.0	↑
Trap 送信先アドレス 5 (SNMP)	0.0.0.0	↑
Trap 送信先アドレス 6 (SNMP)	0.0.0.0	↑

4.2.DNS 設定

DNS(Domain Name Server)は、NTP サーバー、メールサーバーをホスト名から IP アドレスに変換します。

会社内ネットワークの場合、ネットワーク管理者に設定を問い合わせてください。

NTP サーバー、メールサーバーを IP アドレスで記述する場合、設定しなくても動作します。

DNS を変更した場合、再起動が必要になります。

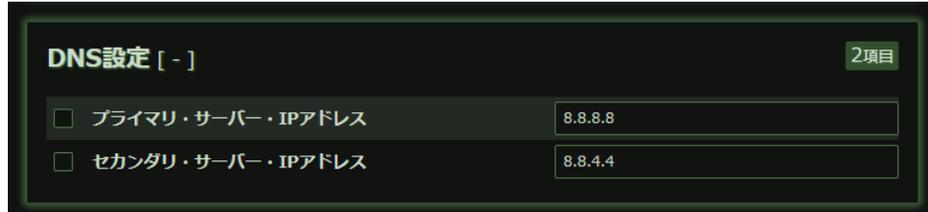


図 4-2 DNS 設定例

機能	初期値	説明
プライマリ・サーバー・アドレス	0.0.0.0	1 つ目の DNS サーバーの IP アドレスを設定します。 図 4-2 では google パブリック DNS の値を設定した例を示しています。
セカンダリ・サーバー・アドレス	0.0.0.0	2 つ目の DNS サーバーの IP アドレスを設定します。 図 4-2 では google パブリック DNS の値を設定した例を示しています。

4.3. 時刻設定

時刻設定は、マニュアル設定あるいはネットワーク経由(NTP)で日付、時刻情報を取得することが可能です。モジュールのログや、メール送信時に時刻を表示するために必要となります。

時計設定 [-]		16項目
<input type="checkbox"/> Frameに手動時刻反映		設定
<input type="checkbox"/> NTP機能		有効
<input type="checkbox"/> NTPサーバー名/アドレス		ntp.nict.jp
<input type="checkbox"/> NTP受信タイムアウト(秒)		20
<input type="checkbox"/> NTPリトライ回数(トラップしきい値)		10
<input type="checkbox"/> NTPアクセス間隔(秒)		3600
<input type="checkbox"/> NTP稼働状況		稼働中
<input type="checkbox"/> NTPエラー		エラーなし
<input type="checkbox"/> NTP Trap設定		無効
<input type="checkbox"/> NTP最新受信時刻		2022-09-01 17:06:28
<input type="checkbox"/> 手動時刻 年		2019
<input type="checkbox"/> 手動時刻 月		1
<input type="checkbox"/> 手動時刻 日		1
<input type="checkbox"/> 手動時刻 時		0
<input type="checkbox"/> 手動時刻 分		0
<input type="checkbox"/> 手動時刻 秒		0

図 4-3 時刻設定例

機能	初期値	説明
Frame に手動時刻反映		手動時刻の年(1900-3000)、月(1-12)、日(1-31)、時(0-23)、分(0-59)、秒(0.59)を設定後、設定ボタンを押すことでフレームに時刻が設定されます。 設定ボタンを押すと、NTP 機能は自動で無効になります。
NTP 機能	無効	ネットワーク経由で時間取得機能を有効にするか無効にするかを設定します。 パラメータを設定する場合は「 NTP 機能 」を「無効」にしてから設定、設定完了後、「有効」にするようにしてください。 ※稼働中にエラーが発生すると、「無効」表示になることがありますが、再起動した場合、ユーザーが設定した値が復元されます。
NTP サーバー名/アドレス	0.0.0.0	NTP サーバーのホスト名か IP アドレス(IPv4)を設定します。 ホスト名を使用する場合、DNS 設定が必要です。 ホスト名は 最大 64 文字 まで対応します。 代表的なパブリック NTP サーバーとして以下のものが利用できます。 ntp.nict.jp ntp.ring.gr.jp time.google.com
NTP 受信タイムアウト(秒)	20	NTP サーバーからデータ受信を待つ秒数を設定します。 1～120 秒の範囲で設定が可能です。
NTP リトライ回数	10	NTP サーバーから応答が無い場合、何回リトライするかを設定します。 NTP 受信タイムアウト秒×NTP リトライ回数の時間内に応答がない場合、エラーと判定し、NTP 機能を停止します。同時に、NTP Trap 設定が有効な場合、Trap 情報を送信します。 1～1024 回の範囲で設定が可能です。
NTP アクセス間隔(秒)	3600	NTP サーバーにアクセスする間隔秒を設定します。 1 時間の場合 3600 秒、24 時間の場合 86400 秒です。 1～86400 秒の範囲で設定が可能です。
NTP 稼働状況		NTP の稼働状況を表します。 「稼働中」か「停止中」が表示されます。
NTP エラー		NTP のエラー内容を表示します。 エラー内容は下記 NTP エラーに詳細な説明があります。
NTP トラップ設定	無効	NTP エラーが発生した場合、トラップ情報を SNMP/メールに送信するかを設定します。
NTP 最新受信時刻		NTP データが受信できた場合、受信最新の日付・時刻情報を表示します。

NTP エラー

NTP でエラーが発生した場合、以下のメッセージが「**NTP エラー**」に表示されます。

エラー内容	説明
エラーなし	NTP 機能が正常に動作しているとき、あるいは NTP 機能が無効なとき表示されます。 取得できた最新の日付・時刻情報が「 NTP 最新受信時刻 」に表示されます。
DNS アドレス解決失敗	① 原因) 「 DNS 設定 」がされていないため、名前から IP アドレスが取得できないときに表示されます。 対策) 正しい DNS アドレス(「 プライマリ・サーバー・アドレス 」、「 セカンダリ・サーバー・アドレス 」)をネットワーク管理者に問い合わせてください。 社外 NTP サーバーを参照する場合、google パブリック DNS サーバー“8.8.8.8”を使用することで接続できる可能性があります。 ② 原因) 「 NTP サーバー名/アドレス 」のホスト名を間違えているため、IP アドレスが取得できないときに表示されます。 対策) 正しい「 NTP サーバー名/アドレス 」をネットワーク管理者に問い合わせてください。
リトライ多数発生	原因) NTP サーバーから「 NTP 受信タイムアウト(秒) 」で設定された時間内に応答が無いことが連続して「 NTP リトライ回数 」発生したときに表示されます。 図 4-3 の設定の場合 20 秒以内の応答が 10 回連続して無かった場合に表示されます。 対策) まず、「 NTP 受信タイムアウト(秒) 」を現在の設定値より 2 倍程度の値にして設定できるようになるまで試してください。「 NTP リトライ回数 」はたまにエラーになる場合に、値を大きくしてみてください。
無効な応答(パケット長)	原因) NTP サーバーからのパケット長(データサイズ)が想定している 48Byte では無かったときに表示されます。 対策) 常に発生する場合は、NTP サーバーを変更してみてください。 変更しても発生する場合、LAN ケーブルを交換してみてください。
RTC 時間情報設定失敗	原因) C5000 シリーズの内蔵時計に日付・時刻が設定できなかったときに表示されます。 対策) 電源を一旦切り、再度電源を投入してください。それでも発生する場合弊社まで連絡をお願いします。

4.4. メール設定

メール機能が有効な場合、SNMP 送信が設定されているトラップ情報に関してメールでも送信することが出来ます。

メール機能を使用する場合、①メールサーバー名/アドレス、②SMTP ポート、③アカウント名、④パスワード、⑤1 つ以上の宛先アドレス、⑥送信者アドレス、⑦返信先アドレスを設定してから、メール機能を有効にしてください。

項目	設定値
メール機能	無効
メールサーバー名/アドレス	192.168.0.200
SMTPポート	25
メール送信間隔	5
アカウント名	admin
パスワード	c5000-admin
宛先アドレス1	c5000-master@ce-domain
宛先アドレス2	
宛先アドレス3	
宛先アドレス4	
宛先アドレス5	
送信者アドレス	c5000@ce-domain
返信先アドレス	c5000@ce-domain
件名	Trap Mail from C5002-20
本文	Trap Mail Body
メール初期値設定	いいえ
Trap設定	無効

図 4-4 メール設定例

機能	初期値	説明
メール機能	無効	メール機能を有効にするか無効にするかを設定します。 パラメータを設定する場合は「メール機能」を「無効」にしてから設定、設定完了後、「有効」にするようにしてください。
メールサーバー名/アドレス		メールサーバーのホスト名か IP アドレス(IPv4)を設定してください。ホスト名は最大 64 文字まで対応します。
SMTP ポート	25	メール送信に使うポートを設定します。 1～65534の範囲で設定が可能です。25で動作しない場合、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
メール送信間隔	5	メール送信の間隔を設定します。 送信間隔内で発生したトラップ情報は 1 通のメールで送信されます。 C5000 内部では 128 個トラップを保存できます。メール送信前に 128 個以上のトラップが発生した場合、後から発生したトラップはメール送信されません。
パスワード		メールサーバーのパスワードを設定します。 1～32 文字の範囲で設定が可能です。
宛先アドレス 1～5		メールの宛先アドレスを設定します。 最大 5 人まで設定でき、0～64 文字の範囲で設定が可能です。 0 文字の場合、宛先は無視されます。

機能	初期値	説明
送信者アドレス		メール送信者のアドレスを設定します。 0～64 文字の範囲で設定が可能です。 プロバイダによっては送信者アドレスが設定されていないとメールを受け付けられない場合がありますので、設定するようにしてください。
返信先アドレス		メール返信先アドレスを設定します。 0～64 文字の範囲で設定が可能です。 特に指定が無い場合、送信者アドレスと同じアドレスに設定してください。
件名		メールのサブジェクトを設定します。 半角英数字 0～64 文字、日本語 0～16 文字の範囲で設定することができます。
本文		メール本文の先頭につける定型文を設定します。 半角英数字 0～128 文字、日本語 0～32 文字の範囲で設定することができます。
メール初期化設定	いいえ	メール設定を初期化します。
Trap 設定	無効	メール送信でエラーが発生した場合のトラップを設定します。 「無効」または「有効」を設定できます。 ※メール送信でエラーが発生した場合、トラップデータをメールで送信できないため、WEB 制御画面、あるいは SNMP 経由でのトラップ表示となります。

4.4.1. メール認証

C5000 シリーズのメール送信は以下の認証に対応しており、セキュリティレベルが高い順に認証を試みます。

1. CRAM-MD5 (最もセキュリティレベルが高い)
2. LOGIN
3. PLAIN

4.4.2. メール送信例

メール送信例を示します。

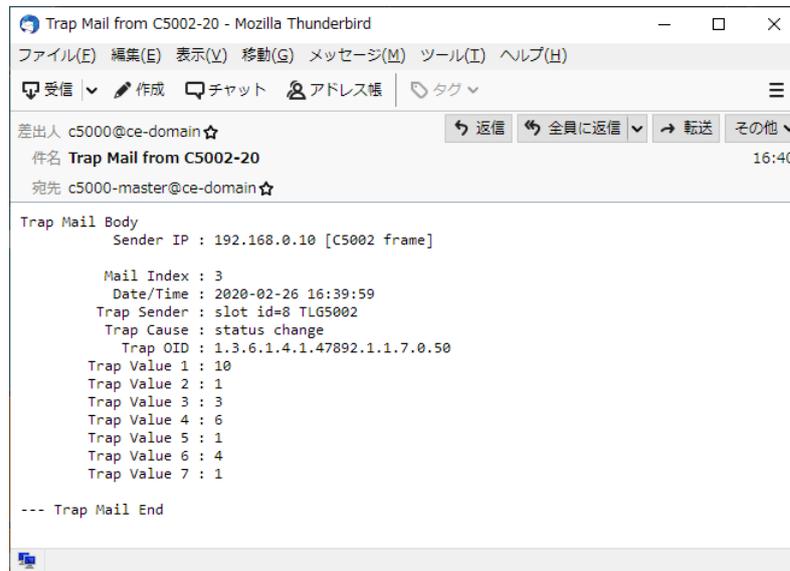


図 4-5 メール送信例

メール 1 件につき 2 行のデータが先頭につきます。

項目	説明
C5002 Trap Mail Body	「件名」で設定した文字列が表示されます。
Sender IP:	送信された C5000 シリーズの設定 IP が表示されます。 ここでは、192.168.0.10 で設定された機器からのトラップメールであることを表しています。 []で囲まれた文字列は製品情報の別名が表示されます。ここでは、「C5002 Frame」と別名設定されていることを表します。

トラップデータ内容が以下のフォーマットで表示されます。

項目	説明
Mail Index	C5000 を起動してからの通算メール件数を表します。 1~4,294,967,295(0xFFFFFFFF)までの番号になります。
Date/Time	発生した日付・時刻を表示します。 NTP 機能の設定が行われていない場合、正しい日付・時刻が表示されません。
Trap Sender	Trap が発生したモジュールの-slot番号、名称が表示されます。
Trap Cause	Trap 発生の要因を示します。要因は以下のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ・detect (検出) ・lost (ロスト) ・alarm (異常) ・normal (正常) ・status change (状態変化) ・information (情報) ・error (エラー) ・unknown (不明) Trap 要因に対応していないモジュールの場合はすべて unknown になります。
Trap OID	Trap OID を表示します。

4.5.再起動設定

ネットワーク設定を変更した場合、フレームの再起動が必要になりますが、WebControl から再起動を行うことができます。

※再起動はフレーム内蔵の CPU のみで、フレーム内のモジュール動作には影響しません。

再起動手順

1. 設定モードにする
2. 「再起動を許可」を「いいえ」から「はい」にする
3. 「コントローラの再起動」の「再起動」ボタンを押す

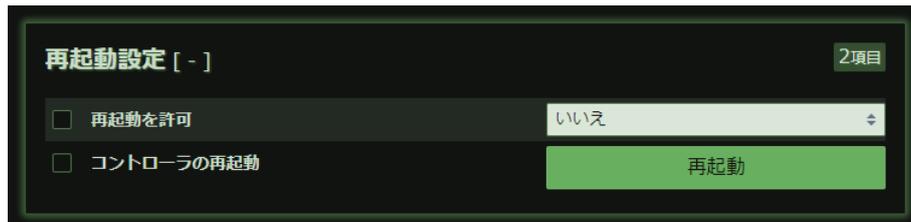


図 4-6 再起動手順 1

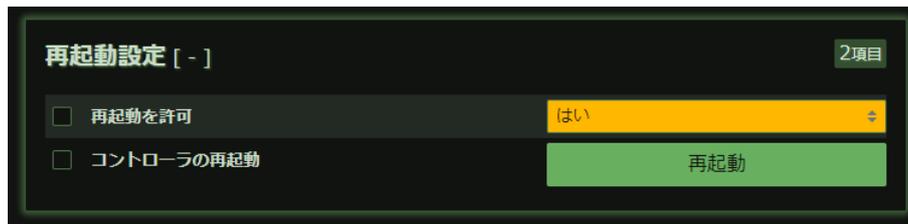


図 4-7 再起動手順 2

5. メニュー詳細

Web 画面右上のメニューアイコン：をクリックすると、メニュー一覧を表示します。

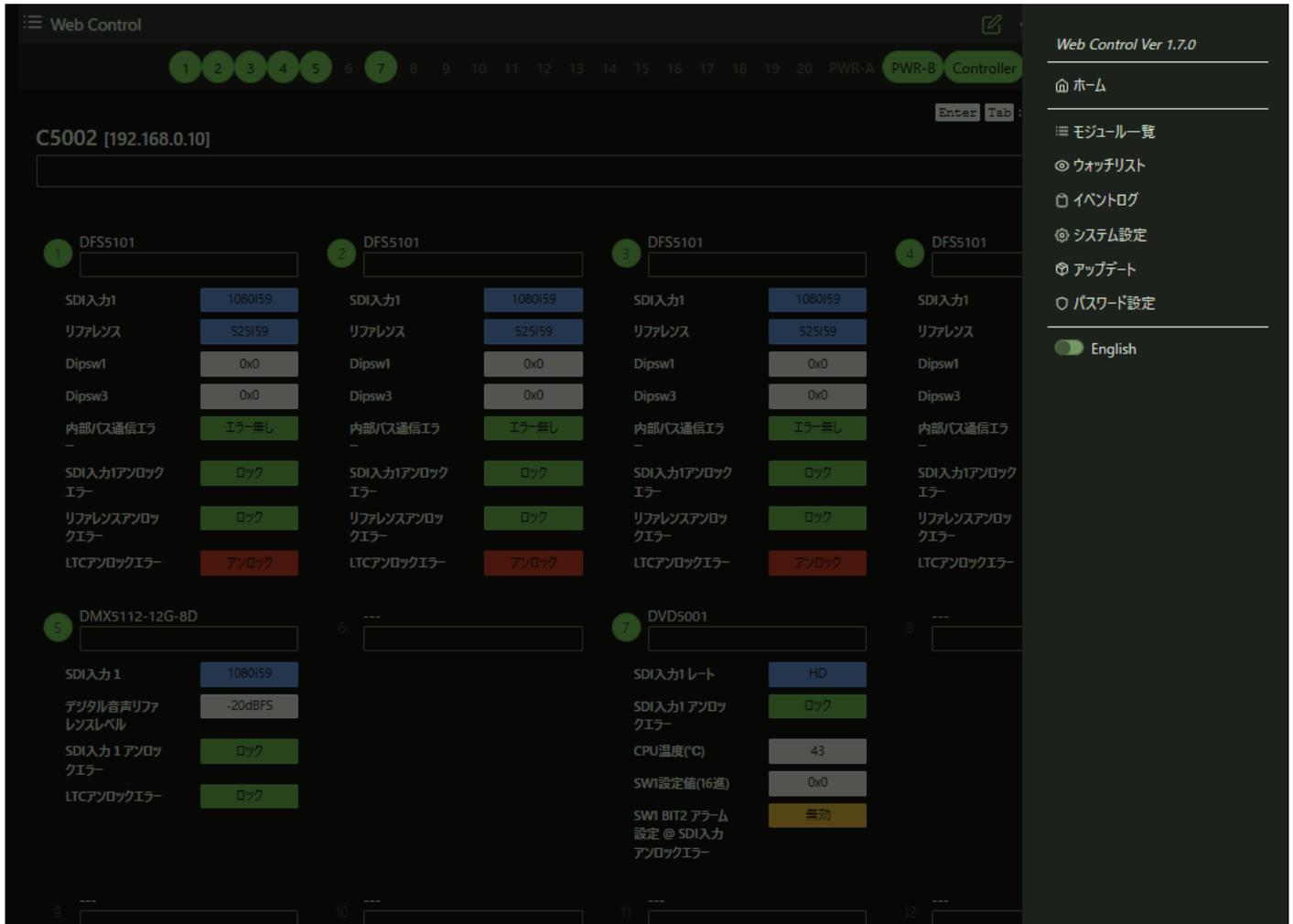


図 5-1 メニューアイコンクリック画面

5.1. ホーム

ホーム画面に遷移します。



図 5-2 ホーム画面

5.2. モジュール一覧

メニュー一覧内の「モジュール一覧」をクリックすると、フレームに実装しているモジュールの一覧を表示します。

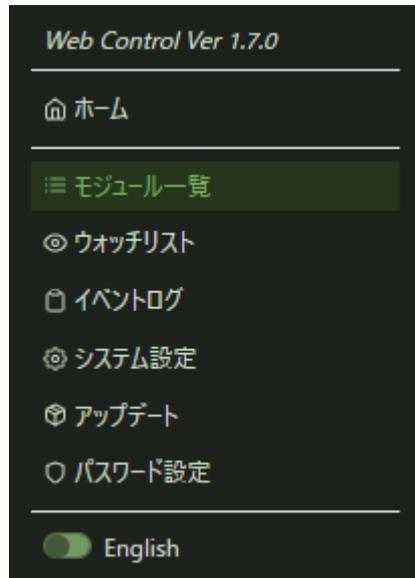


図 5-3 モジュール一覧選択

閲覧モード時のモジュール一覧



図 5-4 モジュール一覧 (閲覧モード)

設定モード時のモジュール一覧



図 5-5 モジュール一覧 (設定モード)

5.2.1. 別名設定例

例として、①DFS5101 に“**系統 1_FS**”、②DFS5101 に“**系統 2_FS**”を入力します。

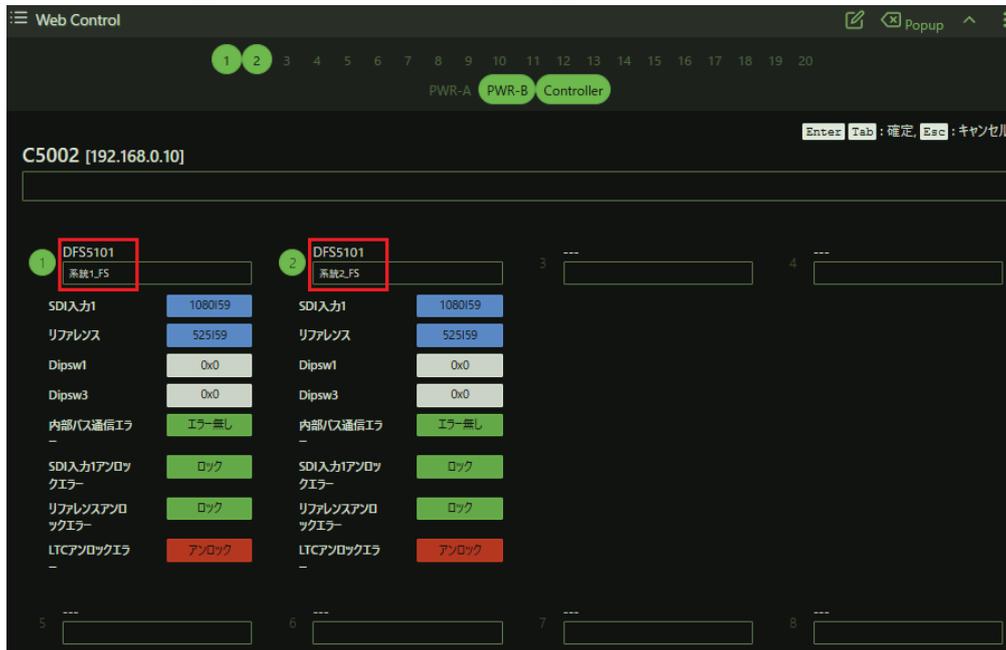


図 5-6 モジュール別名の設定

マウスカーソルをスロット番号に重ねると、モジュール型名と設定した別名を表示します。

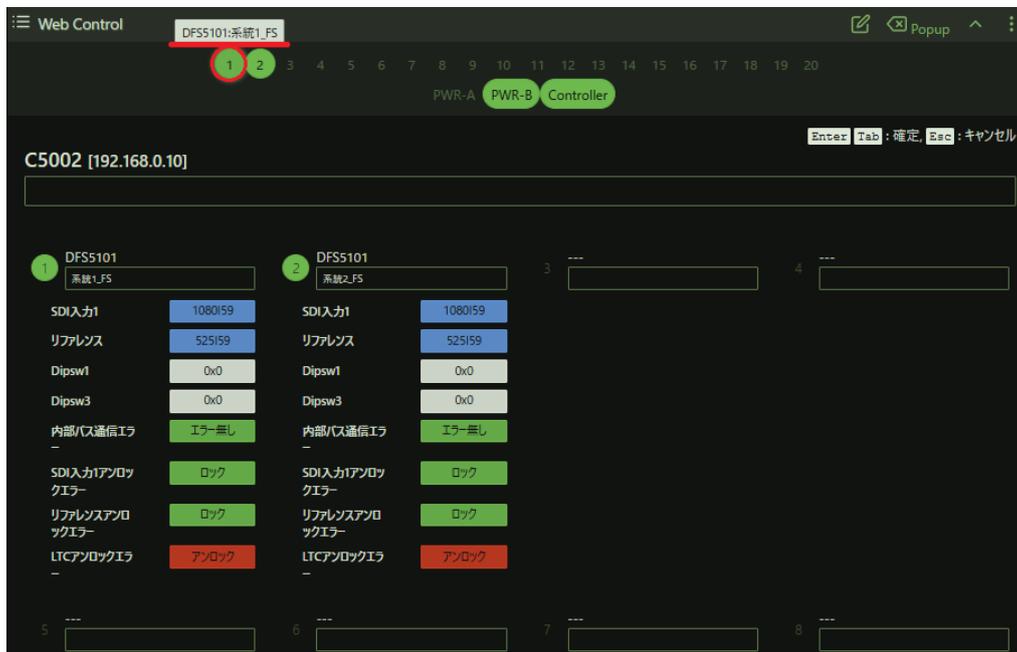


図 5-7 モジュール別名の確認

この設定はブラウザーに保存されます。

同じ PC で接続する場合、次回起動時にこの設定を行う必要はありません。

別の PC やブラウザーで接続する場合は、未設定となります。

5.2.2. 複数列表示

各モジュールをクリックすると、モジュールのパラメータ等の確認ができますが、1行1列表示と1行複数列表示を切り替えることができます。

複数列表示：OFF



図 5-8 1 列表示

複数列表示：ON



図 5-9 複数列表示

この設定はブラウザーに保存されます。

同じ PC で接続する場合、次回起動時にこの設定を行う必要はありません。

別の PC やブラウザーで接続する場合は、未設定となります。

5.3. ウォッチリスト

ウォッチリストは、モジュールごとにウォッチ登録した項目をまとめて、閲覧や設定ができます。

複数モジュールのウォッチ項目が、1画面に表示されます。

各モジュールのパラメータ画面で、ウォッチ登録します。

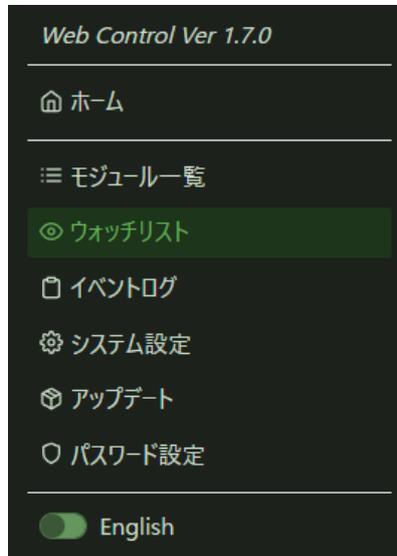


図 5-10 ウォッチリスト選択

5.3.1. ウォッチ項目の登録

DSG5002 と DFS5001 を例にします。

I. モジュール画面のパラメータ画面でウォッチする項目のチェックボックスをチェックします。

以下は、DSG5002 各種設定 - 「リファレンス選択」、ステータス - 「リファレンス」をチェックします。

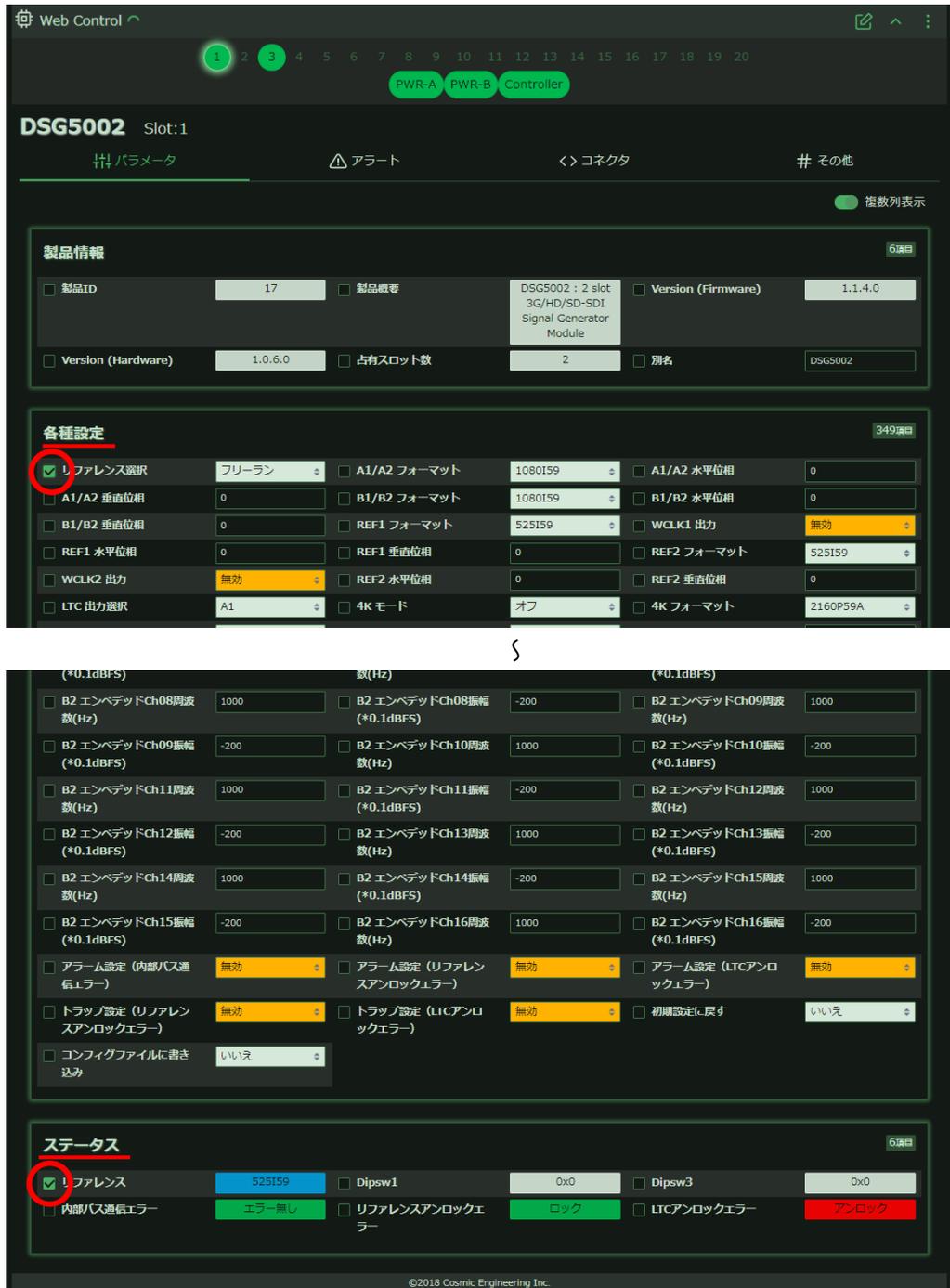


図 5-11 ウォッチリスト登録例 (DSG5002)

II. 同様に、DFS5001 各種設定 - 「リファレンス選択」、ステータス - 「SDI 入力 1」、「リファレンス」をチェックします。

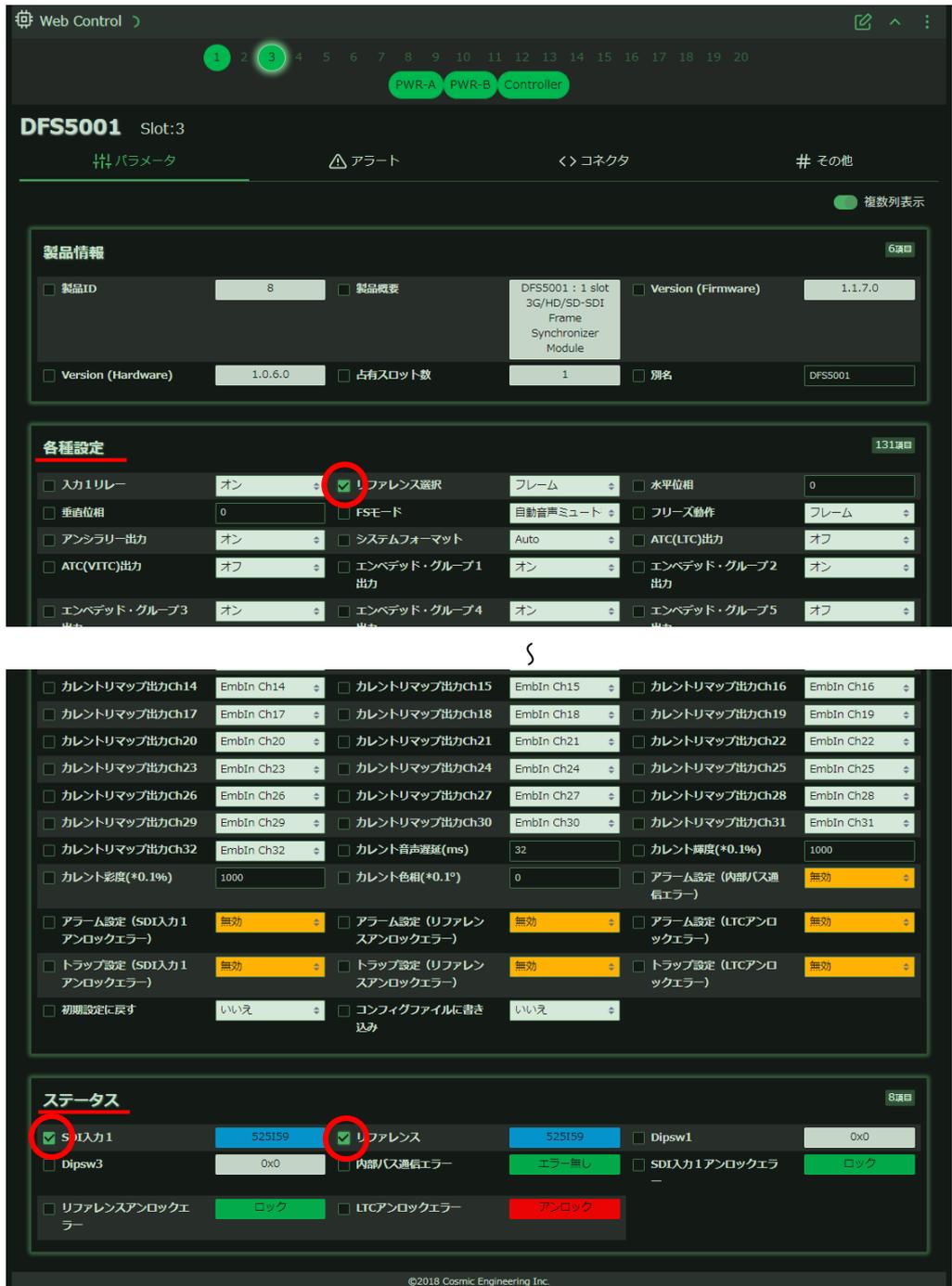


図 5-12 ウォッチリスト登録例 (DFS5001)

5.3.2. ウォッチリスト表示

メニューから「ウォッチリスト」を選択します。

設定したモジュールとウォッチ項目を表示します。

また、設定モード時はこの画面で設定の変更ができます。

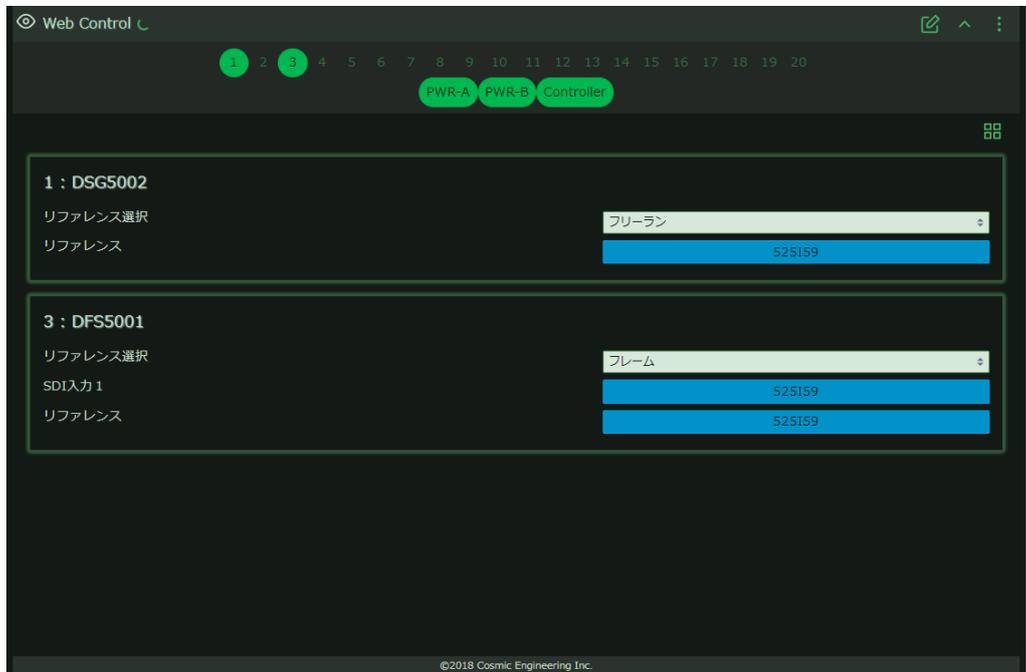


図 5-13 ウォッチリスト表示

表示カラム数の変更

「表示カラム数」アイコンをクリックし、カラム数欄をクリックすると表示カラム数のリストを表示します。

1、2、3、4、6 から選択します。

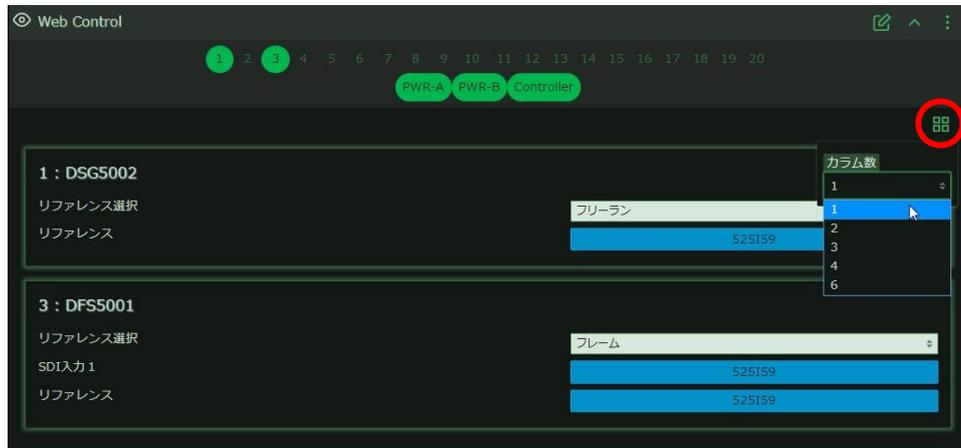


図 5-14 表示カラム数 選択画面

表示カラム数 2 を選択した場合、図 5-14 のようになります。

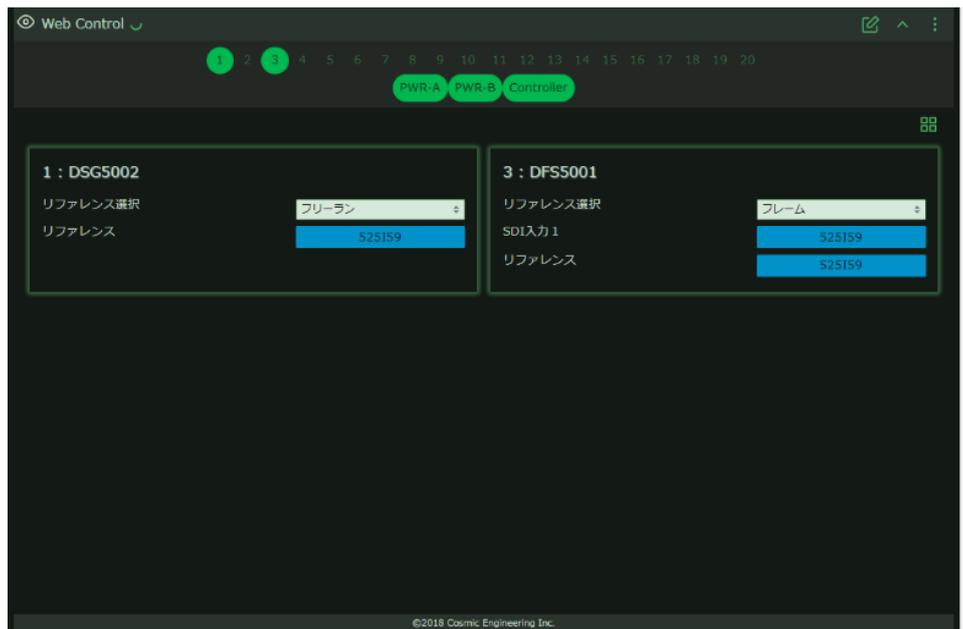


図 5-15 ウォッチリスト表示 カラム数 2 の表示例

5.4. イベントログ

イベントログの表示と保存を行います。

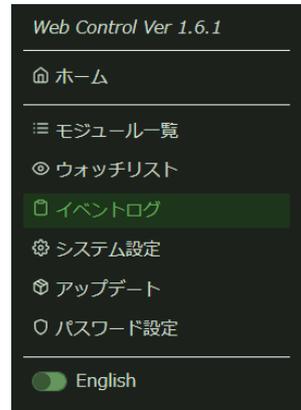


図 5-16 イベントログ 選択

イベントログは、対応ブラウザで WebControl と接続し、「C5000 Web 監視ページ」をクリックした以降から採取します。

監視ページを閉じたり、対応ブラウザを終了するとイベントログは消失します。

PC に保存の際は、「イベントログの保存」を実施願います。

イベントは赤：エラー、黄：警告、緑：通知、青：情報で分類されます。

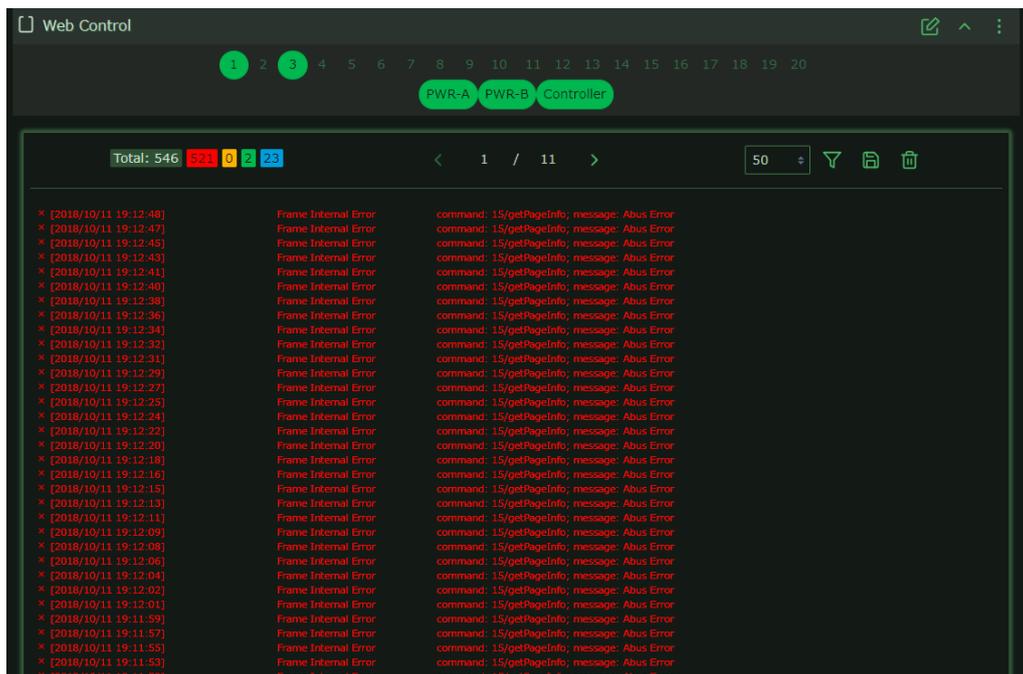


図 5-17 イベントログ例

5.4.1. イベント数表示とページ操作

【イベント一覧表示】

Total: 14 1 2 2 9 < 1 / 1 >

【イベント フィルタリング表示】

Total: 14 (1) 1 (1) 2 (0) 2 (0) 9 (0) < 1 / (1) >

※()はフィルタリング設定で絞り込んだイベント数

Total : 総イベント数
 赤 : エラーイベント数
 黄 : 警告イベント数
 緑 : 通知イベント数
 青 : 情報イベント数



 前のページへ移動 現在のページ 全ページ数 次のページへ移動

※現在のページをクリックすると、任意のページが入力でき移動します。

5.4.2. 表示行数の設定

1 ページ当たりの表示行数を設定します。

行数欄をクリックし、50、100、200、500、all から選択します。

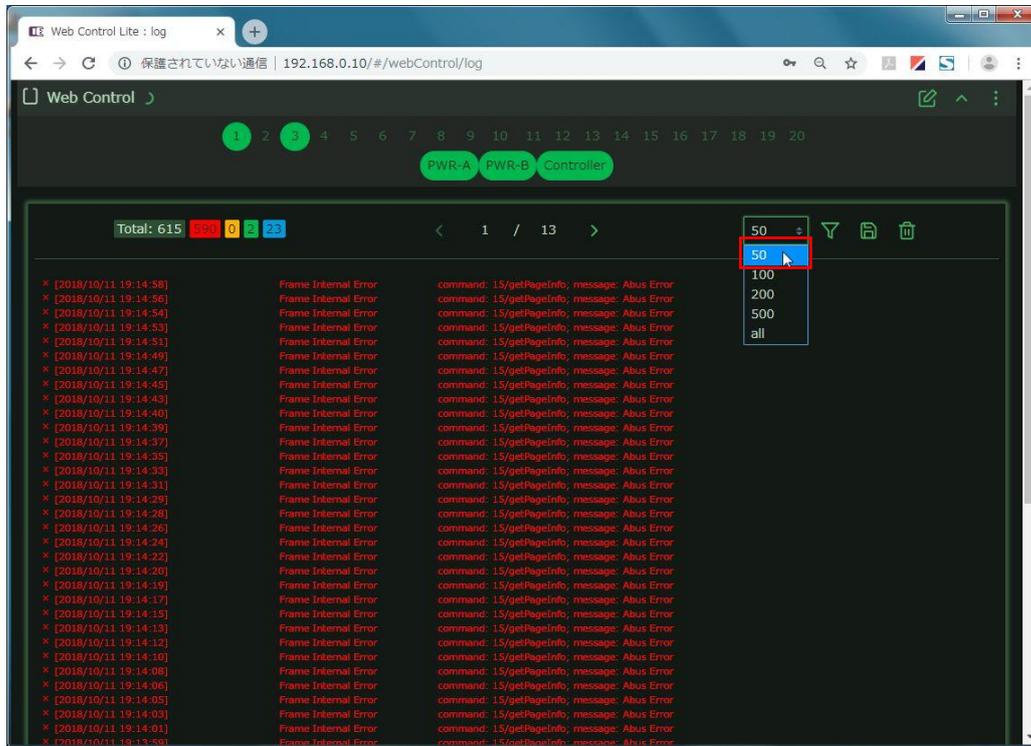


図 5-18 イベントログ 表示行数設定

5.4.3. フィルタリング設定

イベントリスト一覧をフィルタリングして、確認したいイベントを抽出できます。

I. フィルタリングアイコンをクリックします。

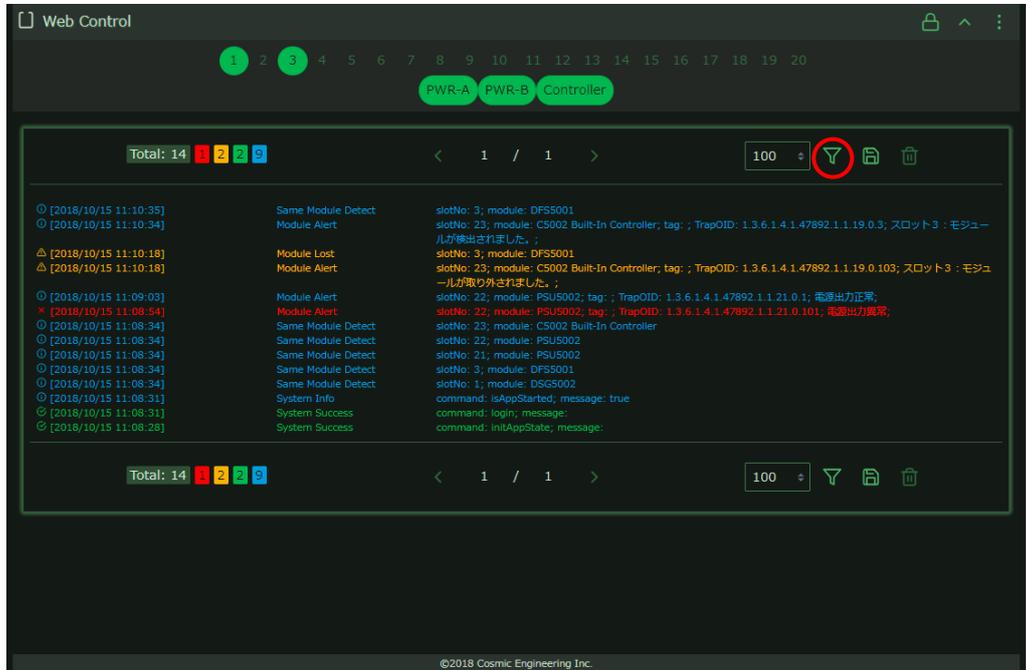


図 5-19 イベントログ フィルタリング設定 1

5.4.4. フィルタリング設定 項目

1) イベントタイプ

■システム関連：WebControl 自体に関するイベントを表示します。

- ・システムエラー
- ・システム警告
- ・システム通知
- ・システム情報
- ・ネットワークエラー
- ・フレーム内部エラー
- ・パスワード変更
- ・パスワードリセット

■フレーム関連：モジュールに関するイベント（トラップ・アラート以外）を表示します。

- ・モジュール未検出（モジュールが抜けた）
- ・新規モジュール検出
- ・登録済みモジュール検出
- ・フレーム種別変更（C5001 から C5002 に変わった、またはその逆）
- ・フレーム設定変更（MAC アドレス変更、など）
- ・モジュール情報変更（設定項目が増えた場合、など）
- ・モジュールバージョン変更
- ・モジュールパラメータ変更

■トラップ・アラート：各モジュールのトラップ・アラートを表示します。

- ・各モジュールのトラップ・アラート
- ・アラート取得失敗（トラップ・アラートが多数発生し、コントローラ内部のバッファがオーバーフローした時）

2) ステータス

- ・エラー（赤）
- ・警告（黄）
- ・通知（緑）
- ・情報（青）

3) モジュール指定：スロット番号あるいはモジュール型名を指定します。



The screenshot shows a dark-themed interface with the following elements:

- A checked checkbox labeled "モジュール指定" (Module Selection).
- A radio button labeled "スロット番号" (Slot Number) which is selected.
- A text input field containing the number "1".
- An unselected radio button labeled "モジュール名" (Module Name).
- A dropdown menu showing "DFS5001".

図 5-22 モジュール指定 スロット番号指定画面



The screenshot shows a dark-themed interface with the following elements:

- A checked checkbox labeled "モジュール指定" (Module Selection).
- An unselected radio button labeled "スロット番号" (Slot Number).
- A text input field containing the number "1".
- A selected radio button labeled "モジュール名" (Module Name).
- A dropdown menu with a list of module names: "DFS5001", "DSG5002", "DFS5001", "PSU5002", and "C5002 Built-In Controller". The "DFS5001" option is highlighted in blue.

図 5-23 モジュール指定 モジュール名指定画面

5.4.5. フィルタリング設定 画面表示

「フィルタリング」アイコンをクリックします。



図 5-24 フィルタリングログ 表示/非表示ボタン

5.4.6. フィルタリング表示解除

「解除」アイコンをクリックします。



図 5-25 フィルタリング表示解除 アイコン

5.4.7. イベントログの保存

「保存」アイコンをクリックします。

対応ブラウザが設定しているダウンロードフォルダーにイベントログを保存します。

ファイル名は、「eventlog_YYYYMMDD_HHMMSS.log」です。

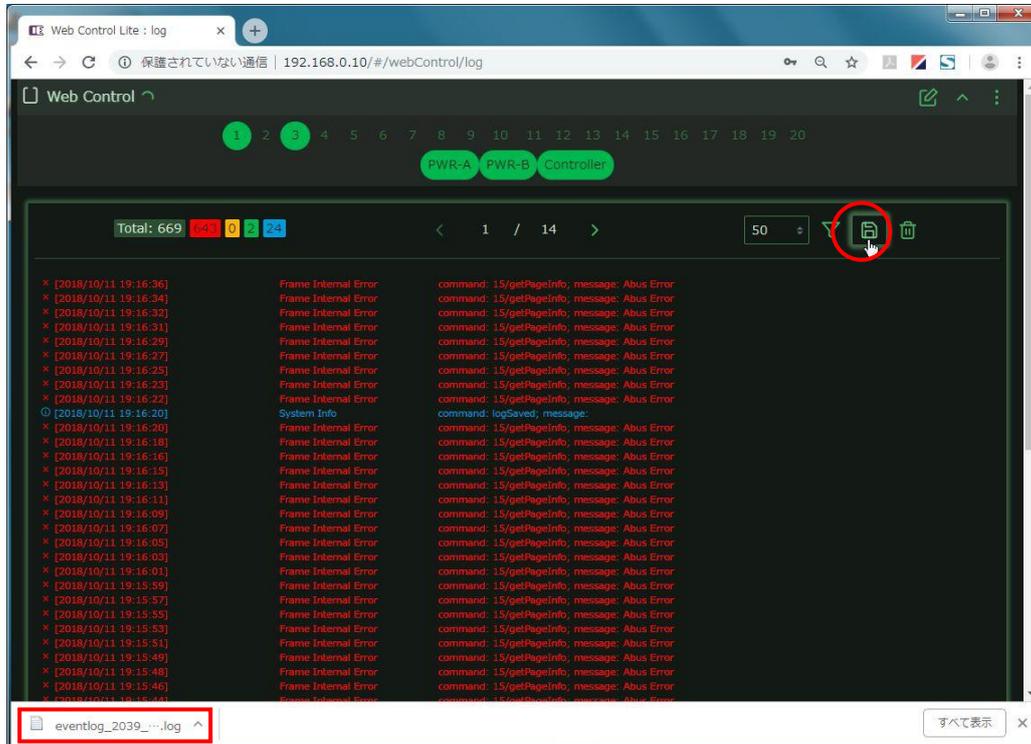


図 5-26 イベントログの保存 アイコン

5.4.8. イベントログのクリア

「ゴミ箱」アイコンをクリックします。

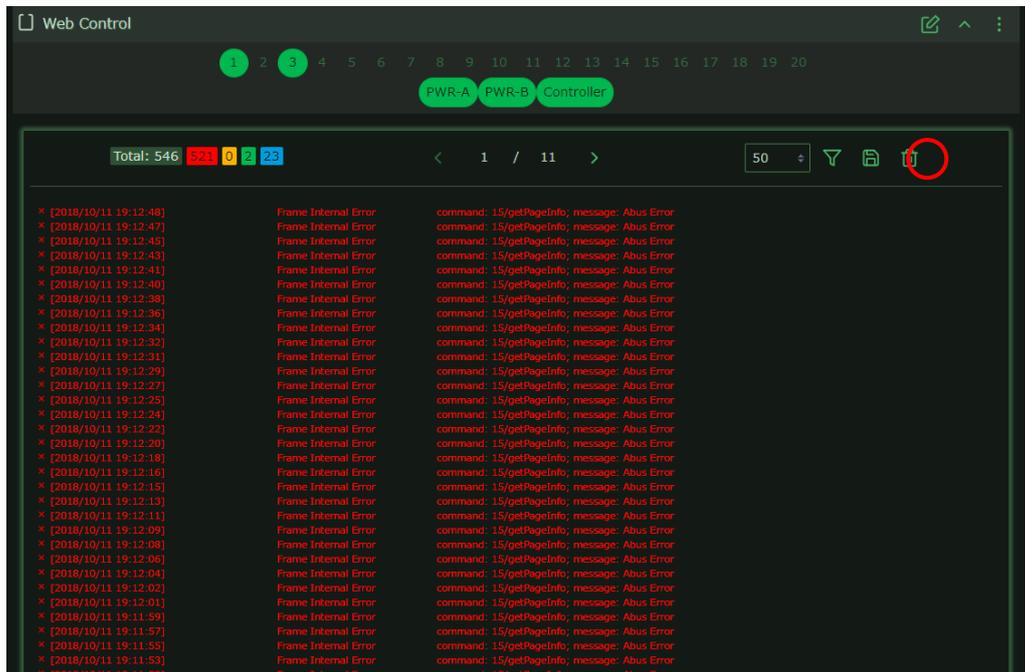


図 5-27 イベントログのクリア アイコン

イベントログをクリアするには「OK」をクリックします。「キャンセル」で中断します。

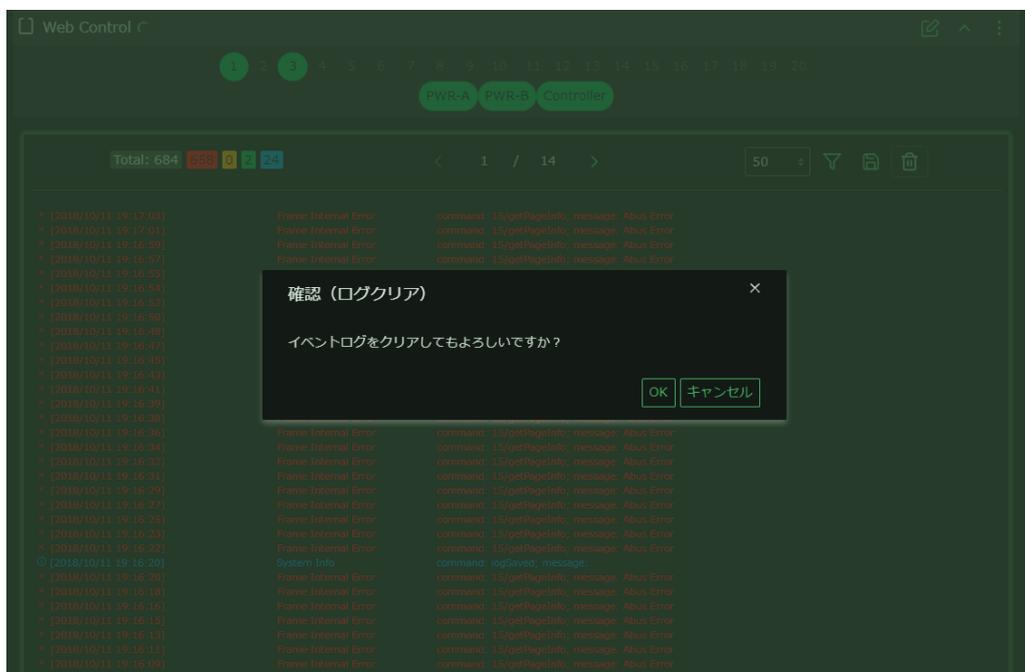


図 5-28 イベントログのクリア 確認

5.5. システム設定

システム設定には、「全般」、「アラート設定」、「アラート音登録」、「その他」があります。

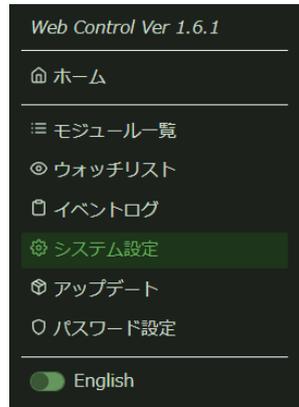


図 5-29 システム設定 選択

5.5.1. 全般タブ



図 5-30 システム設定 全般

ポップアップ設定

ポップアップ表示全般の表示位置、表示が消えるまでの時間を設定します。

確認ダイアログ

モジュールへ設定値を書き込む際に確認する/しないを設定します。

確認するに設定した場合は、モジュールの設定値を変更するたびに下記ダイアログを表示します。

モジュールに書き込む際は「OK」をクリックします。「キャンセル」で破棄します。



図 5-31 システム設定変更 確認

イベントログ

イベントログのバッファサイズを指定します。

バッファサイズを超えた場合は古いイベントから順に削除されます。

ページ描画

ブラウザの画面全体に表示する/しないを指定します。

時計情報

チェックするとイベントログの時刻を C5000 の内蔵時計に合わせ、チェックオフするとパソコンの時刻に合わせます。

初期化

WebControl の全設定値を初期化します。

「初期化」をクリックします。

確認のダイアログを表示しますので、初期化する場合は「OK」をクリックします。「キャンセル」で中断します。



図 5-32 初期化 確認画面

5.5.2. アラート設定タブ



ポップアップ表示するアラートを設定します。

I. アラート項目

- ・モジュール未検出
- ・新規モジュール検出
- ・登録済みモジュール検出
- ・アラート取得失敗
- ・フレーム種別変更
- ・フレーム設定変更
- ・モジュール情報変更
- ・モジュールバージョン変更
- ・パスワード変更
- ・パスワードリセット
- ・モジュールパラメータ変更
- ・ネットワークエラー
- ・フレーム内部エラー
- ・システムエラー
- ・システム警告
- ・システム通知
- ・システム情報

II. 設定項目

- ・ユーザーメッセージ：任意のメッセージ
- ・ポップアップ表示：表示/非表示
- ・表示色：赤/黄/緑/青
- ・自動消去：自動消去 ON/自動消去 OFF
- ・アラート音：ON/OFF
- ・アラート音ループ再生：LOOP/NO LOOP
- ・音声ファイル指定：登録済み音声より選択

アラート設定例（フレーム内部エラー）

「設定モード」であることを確認します。

エラーメッセージが「フレーム内部エラー」までスクロールします。

「ポップアップ表示－表示」をクリックして、非表示に変更します。

非表示に変更後、「フレーム内部エラー」表示をクリックしてポップアップ表示を消してください。

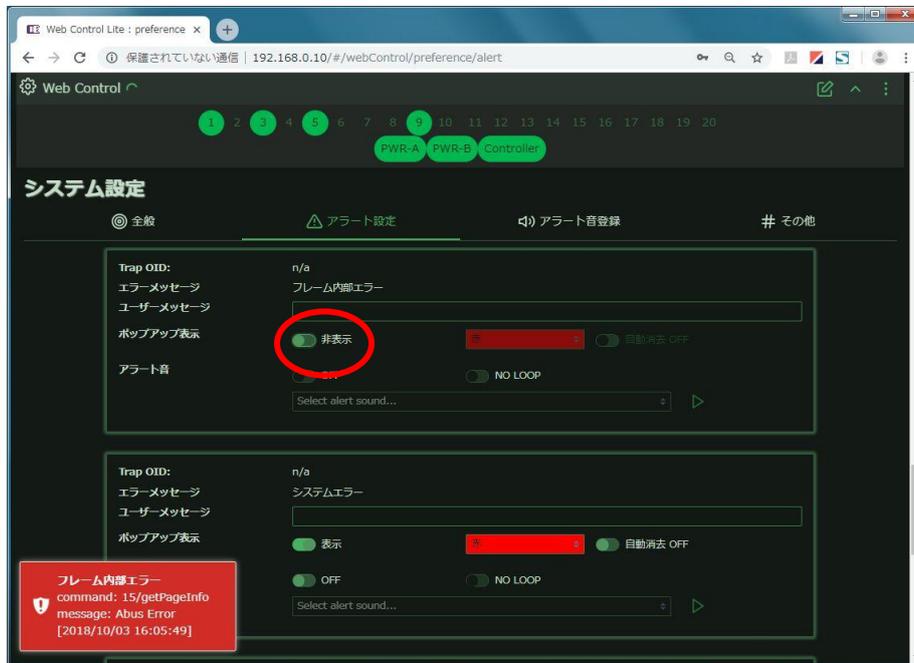


図 5-33 フレーム内部エラー 非表示

この設定は、ブラウザに保存されます。次回起動時にこの設定を行う必要はありません。

5.5.3. アラート音登録タブ

ポップアップ表示する際のアラート音を登録します。アラート音の ON/OFF、繰り返しは「アラート設定」で行います。アラート音は、音声ファイルを再生します。音声ファイルは 64 ファイルまで登録できます。また、登録した音声ファイルの削除も行えます。

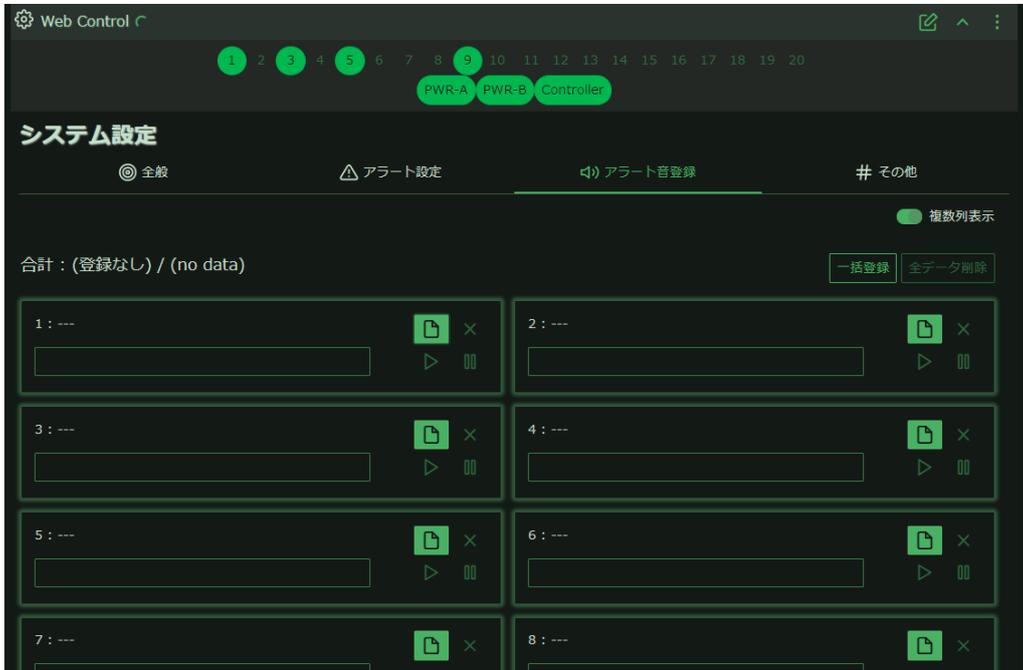


図 5-34 アラート音登録タブ

音声ファイルの登録

I. 音声ファイルを選択します。「ファイル」アイコンをクリックします。

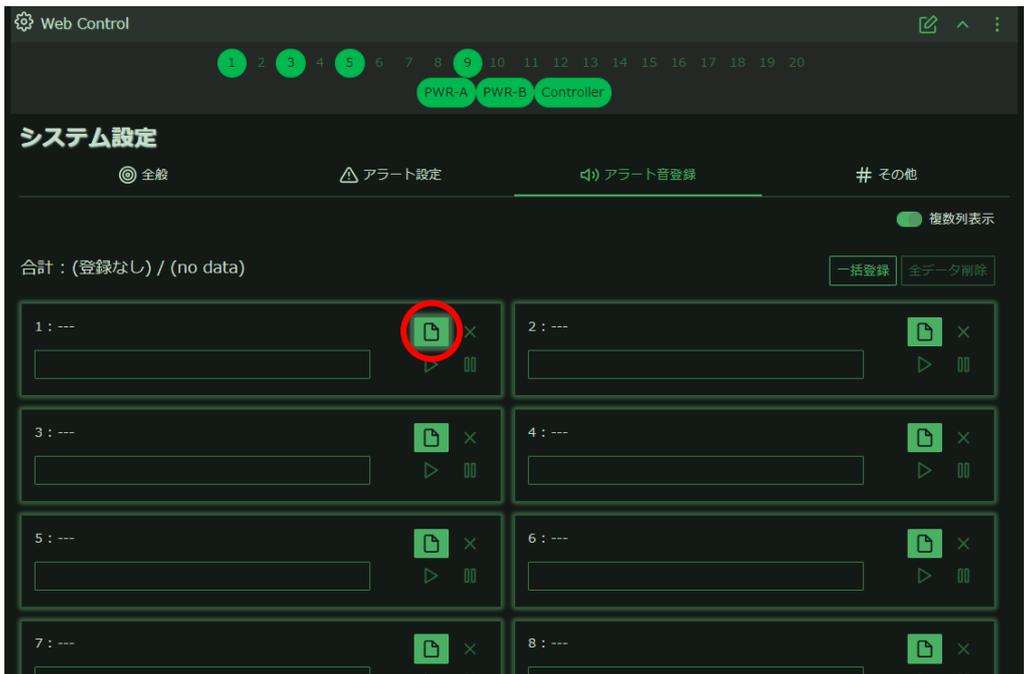


図 5-35 音声ファイルの登録 1

II. ファイル選択ダイアログから音声ファイルを選択し、「開く」をクリックします。

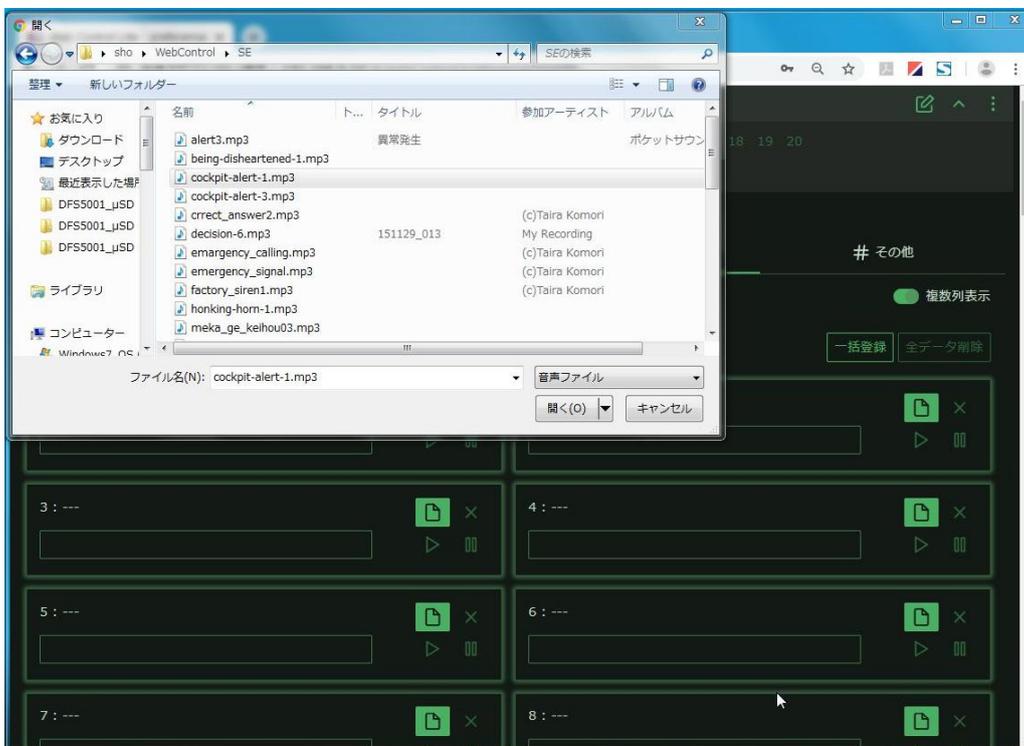


図 5-36 音声ファイルの登録 2

III. 音声ファイルが登録され、名称、再生時間、ファイル容量を表示します。
また、「▶」アイコンで、プレビュー確認（ファイル再生）できます。

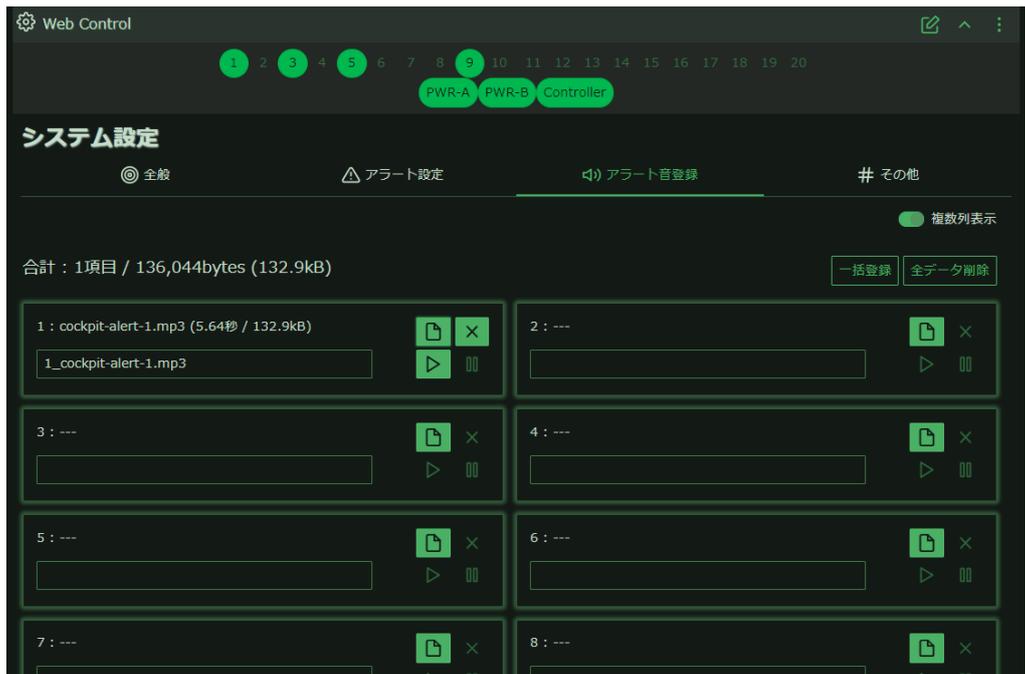


図 5-37 音声ファイルの登録 3

音声ファイル登録時、テキストボックス（名称）にはデフォルトで『(番号)_(ファイル名)』が設定されます。変更する際は、テキストボックスを直接書き換えます。

システムおよび各モジュールのアラート設定で音声ファイルを選択するリストには、このテキストボックスに入力された名称が表示されます。

音声ファイルの一括登録

I. 音声ファイルを選択します。「一括登録」アイコンをクリックします。

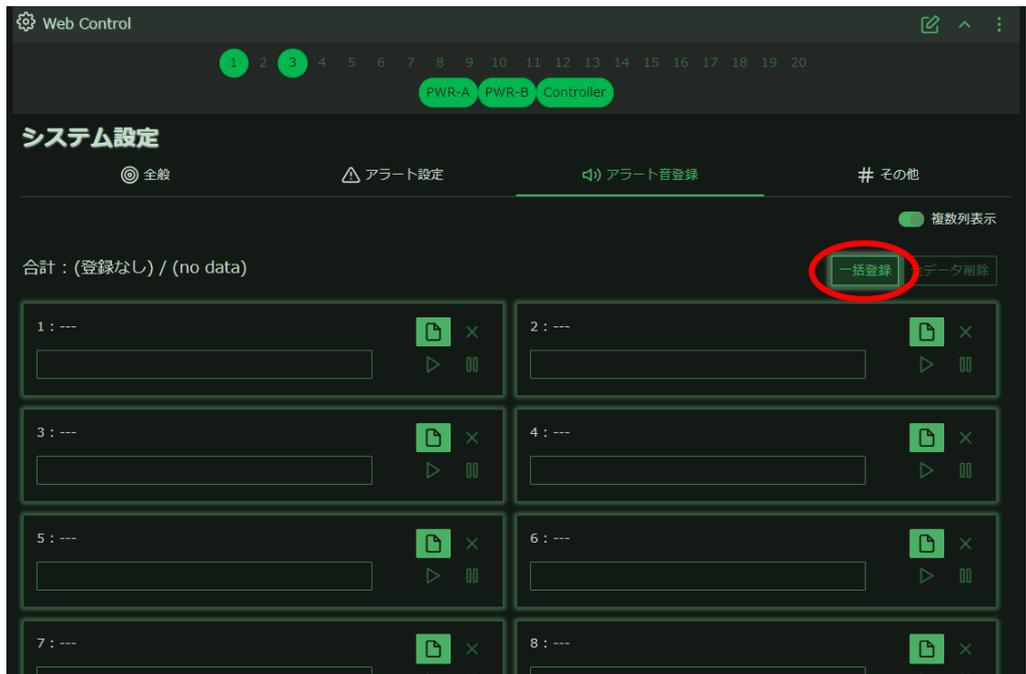


図 5-38 音声ファイルの一括登録 1

II. 「ここを[クリック]して～」をクリックしファイル選択ダイアログで音声ファイルを選択します。

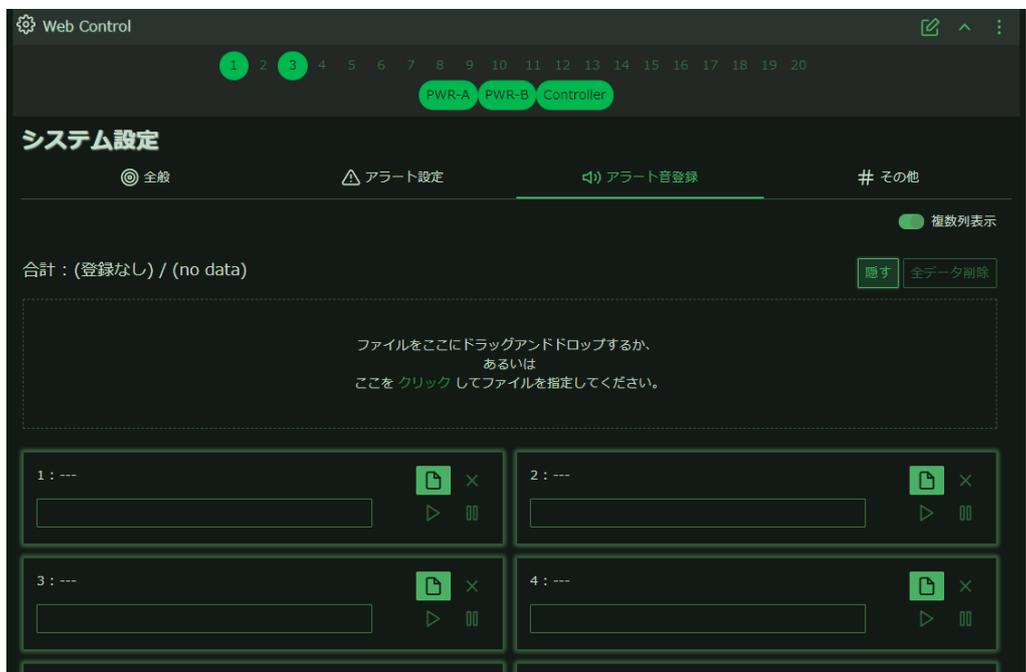


図 5-39 音声ファイルの一括登録 2

Ⅲ. ファイル選択ダイアログから複数の音声ファイルを選択し、「開く」をクリックします。

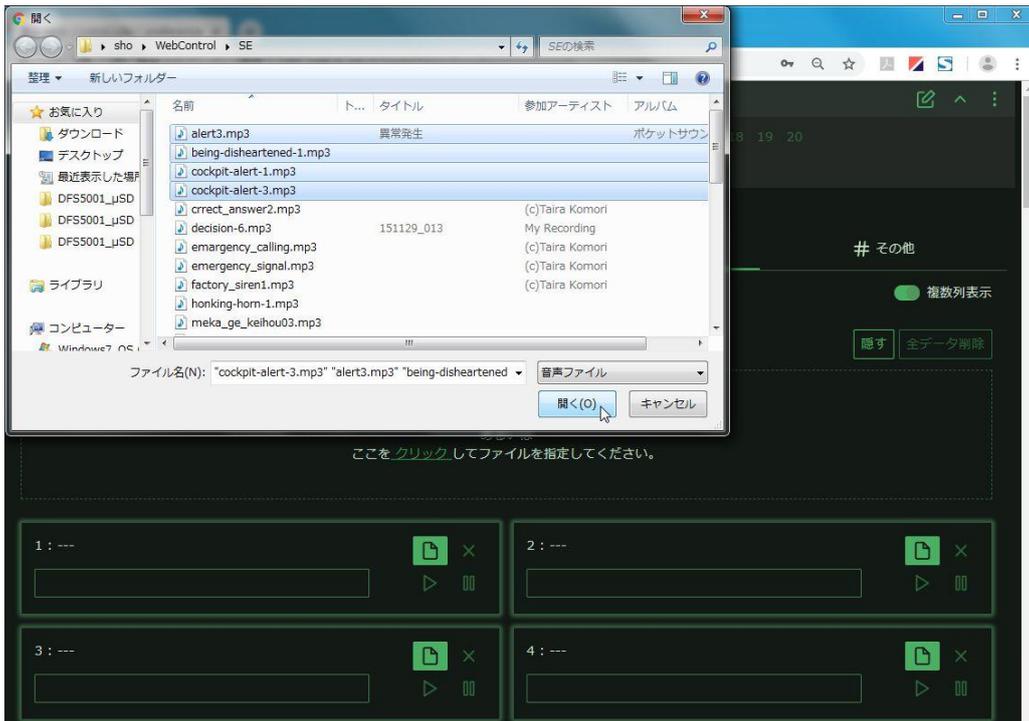


図 5-40 音声ファイルの一括登録 3

Ⅳ. 若番から空いている番号に自動的に登録し、ファイル名、再生時間、ファイル容量を表示します。また、「▶」アイコンで、プレビュー確認（ファイル再生）できます。



図 5-41 音声ファイルの一括登録 4

音声ファイル登録時、テキストボックス（名称）にはデフォルトで『(番号)_(ファイル名)』が設定されます。変更する際は、テキストボックスを直接書き換えます。

システムおよび各モジュールのアラート設定で音声ファイルを選択するリストには、このテキストボックスに入力された名称が表示されます。

音声ファイルの削除

I. 削除する音声ファイル項目の「×」アイコンをクリックします。

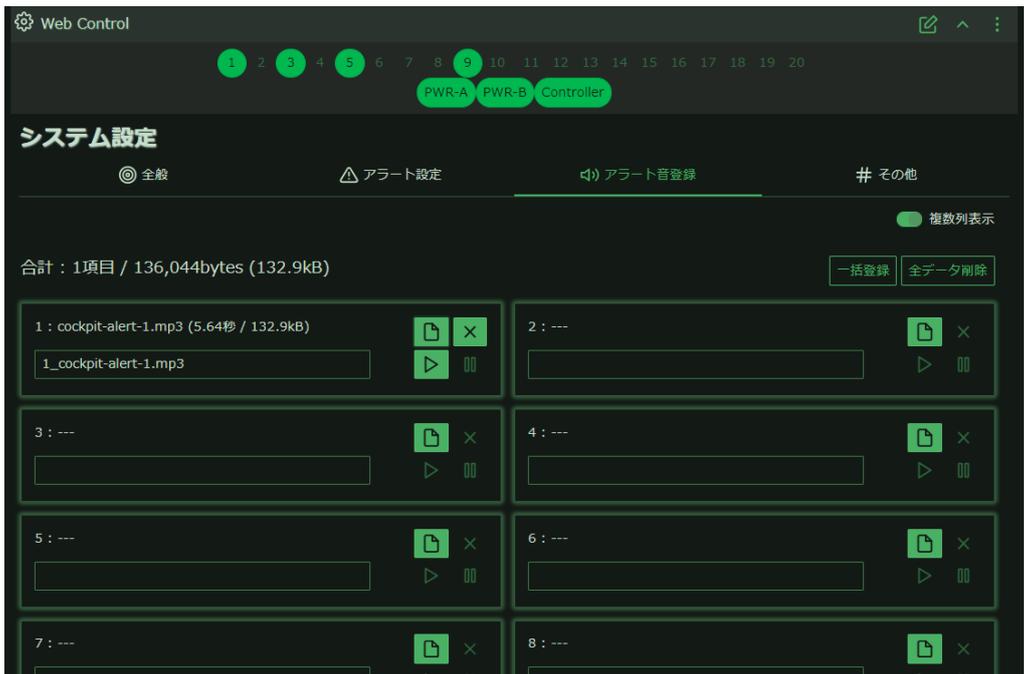


図 5-42 音声ファイルの削除 1

II. 確認画面を表示します。削除する場合は「OK」をクリックします。「キャンセル」で中断します。

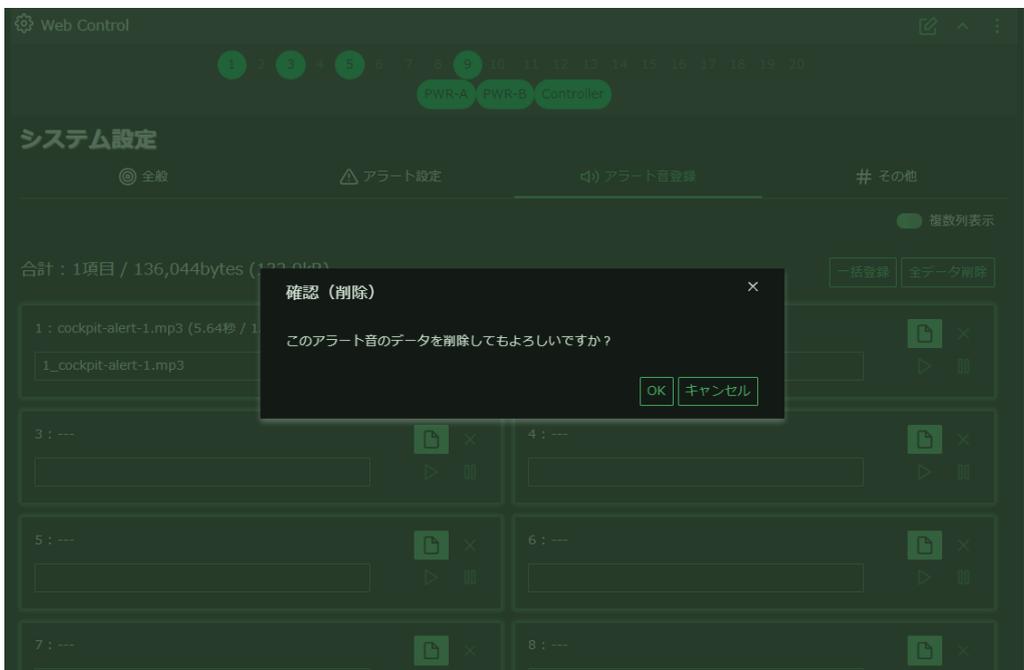


図 5-43 音声ファイルの削除確認

音声ファイルの全削除

I. 「全データ削除」アイコンをクリックします。

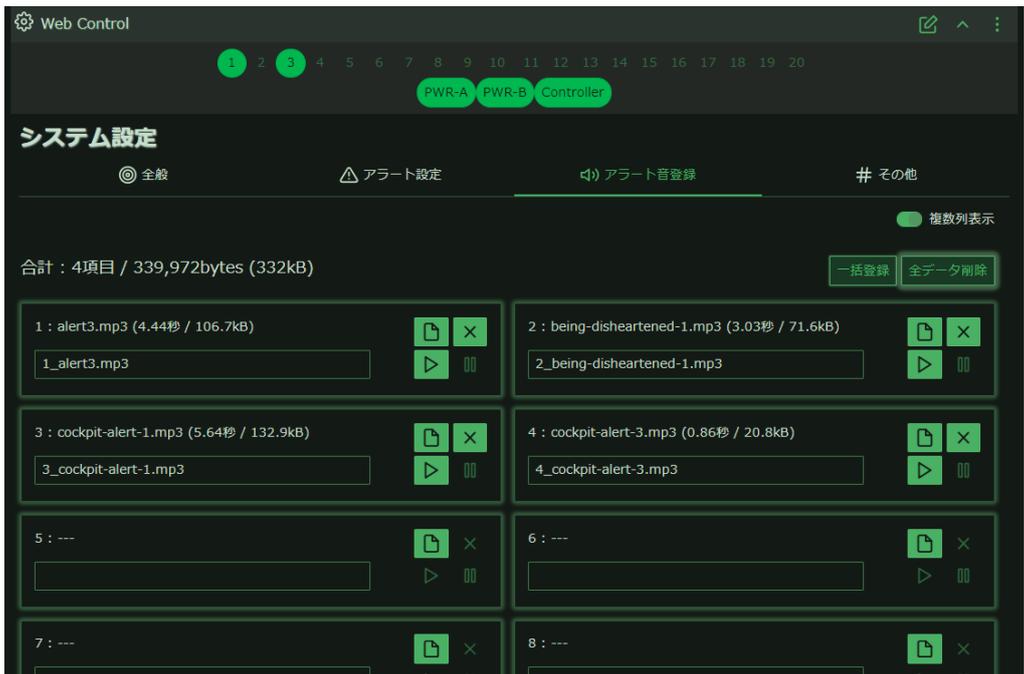


図 5-44 音声ファイルの全削除 1

II. 確認画面を表示します。削除する場合は「OK」をクリックします。「キャンセル」で中断します。



図 5-45 音声ファイルの全削除 確認

音声ファイル仕様

Windows 環境では、以下の音声ファイルに対応しています。

「.wav」,「.mp3」,「.ogg (Vorbis)」,「.m4a (MPEG4 AAC)」

5.5.4. その他タブ

設定の保存と復元

システム設定で設定した値は、設定した PC 上に保存しています。

PC を更新する場合や他の PC で WebControl を実行するときは、設定の保存と復元で設定値を移動します。

現 PC でシステム設定の保存をしたデータファイルを移行先の PC で復元します。

あるいは、バックアップとしてデータファイルを管理します。

設定の保存

I. 処理の選択で「保存」をチェックし、保存する項目をチェックします。

「全機能モジュールの設定」は、フレームに実装している各モジュールの設定値です。

各モジュールの設定は、モジュールごとの設定画面でも保存することができます。

保存ファイル名を入力します。



図 5-46 システム設定の保存

II. 「保存」をクリックすると C5002 フレームからダウンロードします。

保存先は対応ブラウザで設定されているダウンロードフォルダーです。

ファイルの拡張子は「.json」です。

設定の復元

I. 処理の選択で「復元」をチェックします。



図 5-47 設定の復元 1

II. 復元するデータファイルを選択します。

「ここを[クリック]して～」でファイル選択ダイアログからデータファイルを選択します。

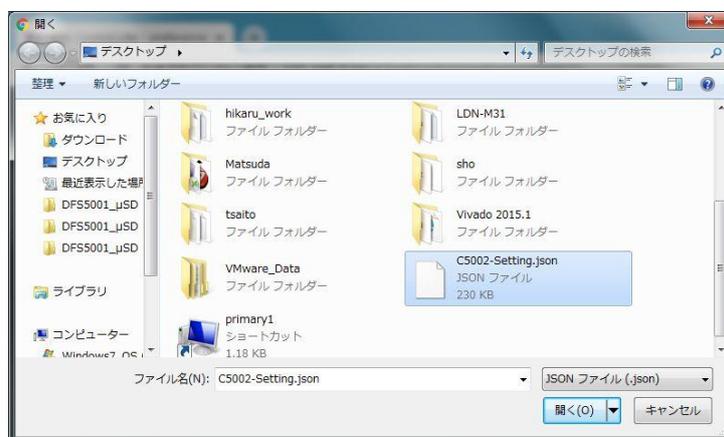


図 5-48 設定の復元 2

Ⅲ. 復元する項目をチェックし、「復元」をクリックします。



図 5-49 設定の復元 3

IV. 復元が終わったら、ホーム画面に遷移してページの「再読み込み」を行います。
画面上で右クリックして、「再読み込み」をクリックします。

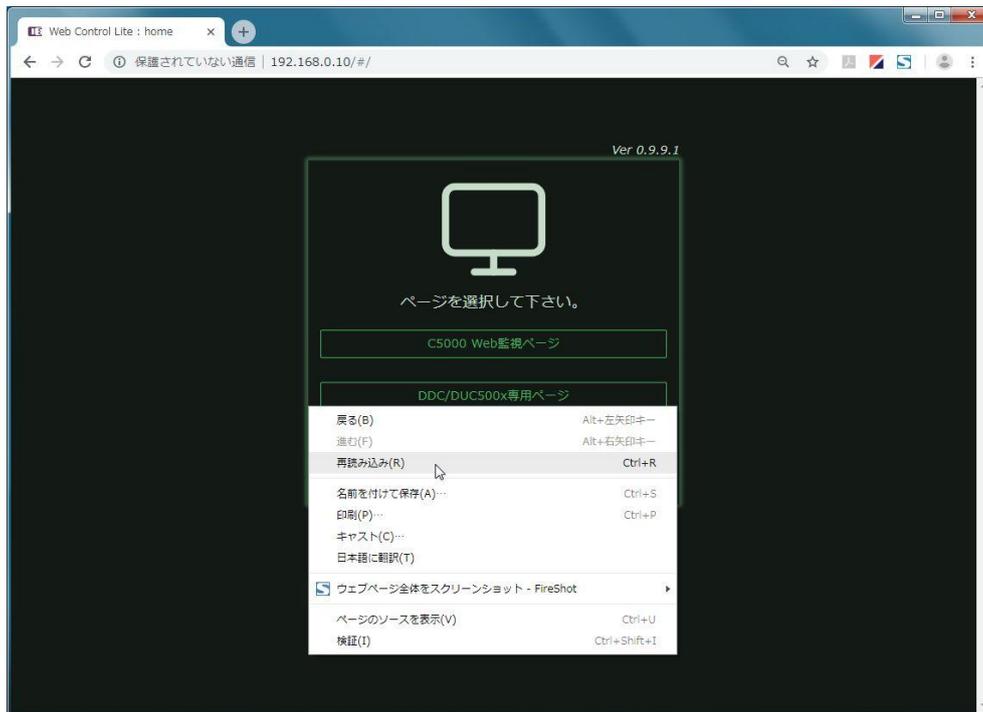


図 5-50 設定の復元 4

5.6. アップデート

フレームに実装しているモジュール、内蔵コントローラや電源ユニットのファームウェア(FW)のアップデートを行います。

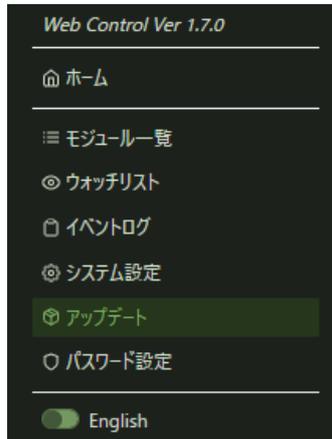


図 5-51 アップデート 選択

各プログラムデータは弊社よりご提供いたします。

I. モジュールの選択をクリックし、アップデートするモジュールを選択します。

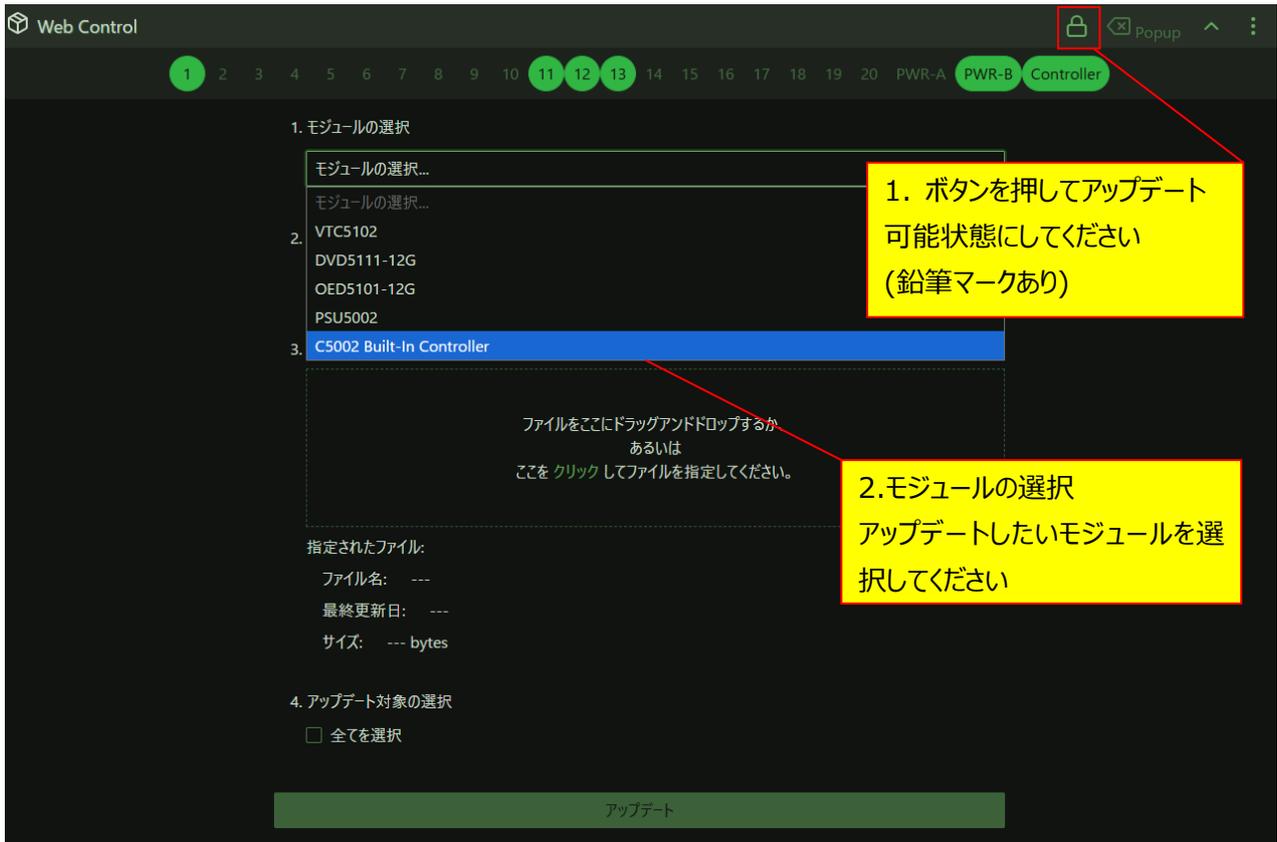
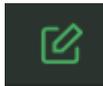


図 5-52 アップデート モジュール選択

1. 鍵アイコンを押下してアップデート可能状態にしてください。



閲覧モード時のツールバーの鍵アイコン



アップデート時のツールバーの鍵アイコン

設定の変更、ファームウェアアップデートをすることが可能です。

2. モジュールの選択を押下してアップデートモジュールを選択してください。

- Ⅱ. デバイスの選択をクリックし、アップデートするデバイスを選択します。
 デバイスの選択は、モジュールの F/W 構成によって 2 種類あります。
- (1) boot/main で構成されるモジュール
 - (2) main0/main1 で構成されるモジュール

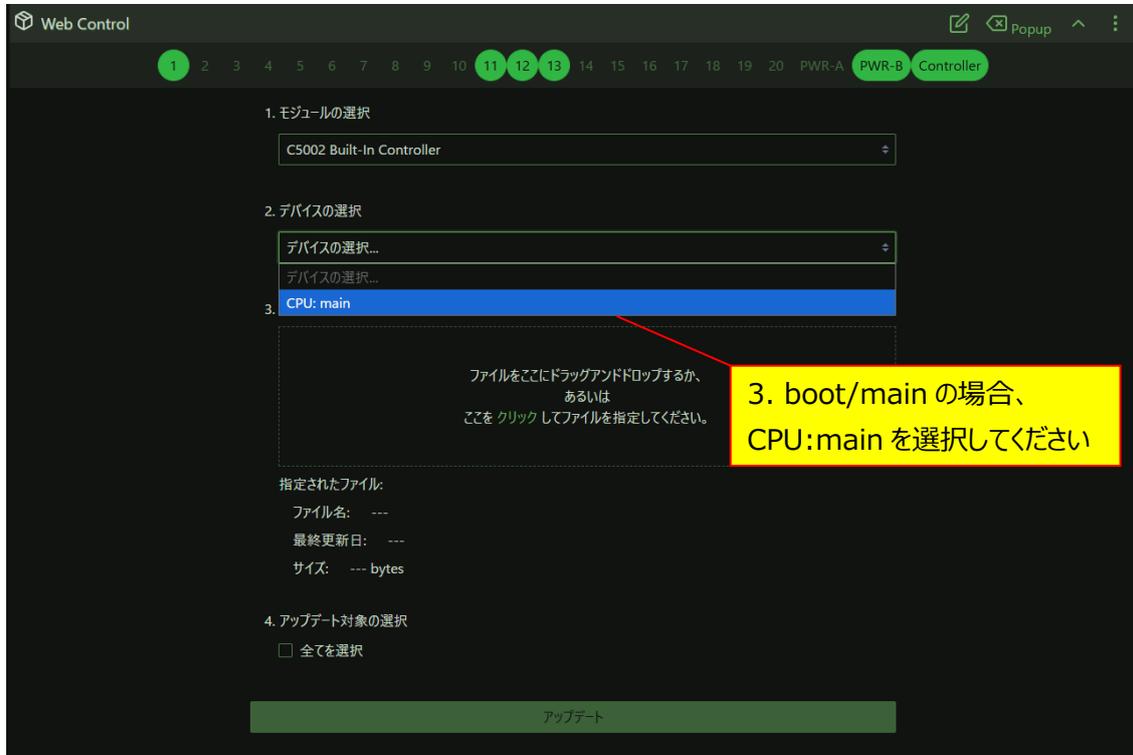


図 5-53 アップデート デバイス選択(boot/main)

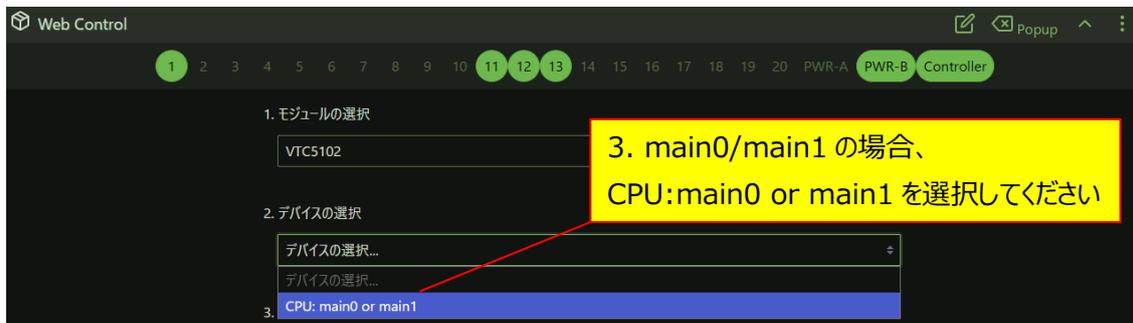


図 5-54 アップデート デバイスの選択(main0/main1)

3. デバイスの選択

main/boot で構成される場合、図 5-53 のように main を選択してください。

main0/main1 で構成される場合、図 5-54 のように main0 or main1 を選択してください。

Ⅲ. 「ここを[クリック]して～」をクリックしファイル選択ダイアログでプログラムデータファイルを選択します。

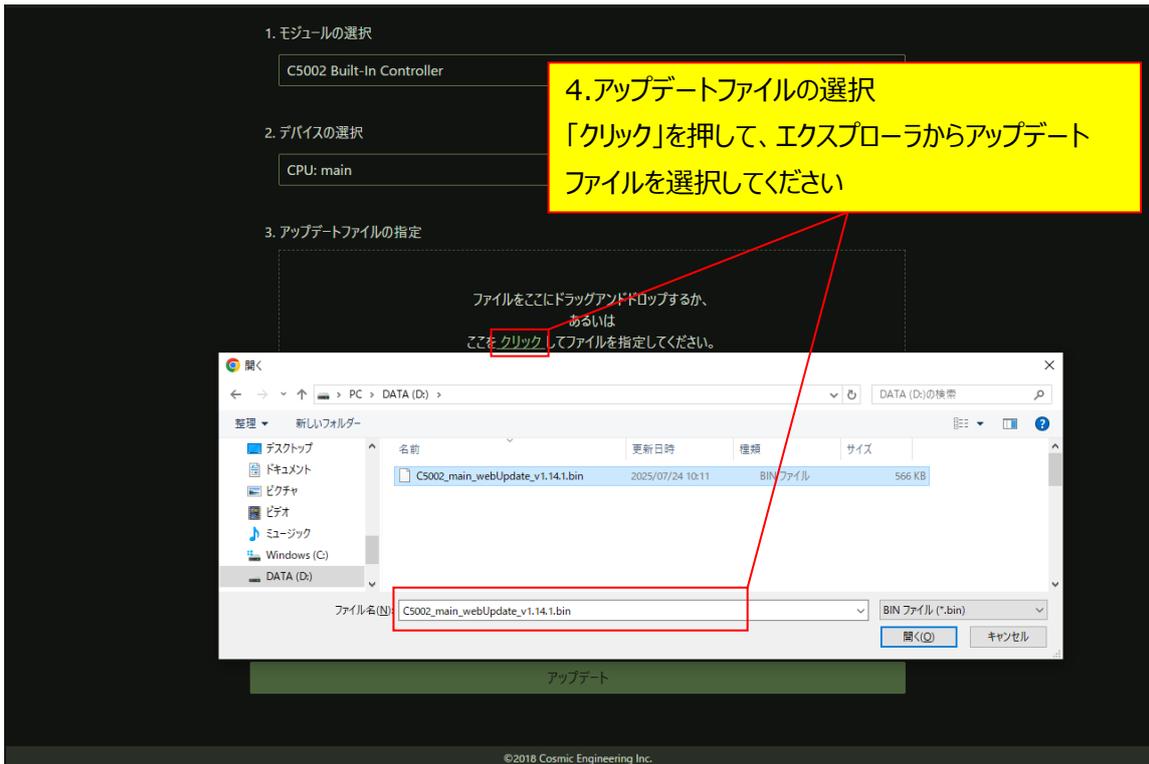


図 5-55 アップデート ファイル選択(boot/main)

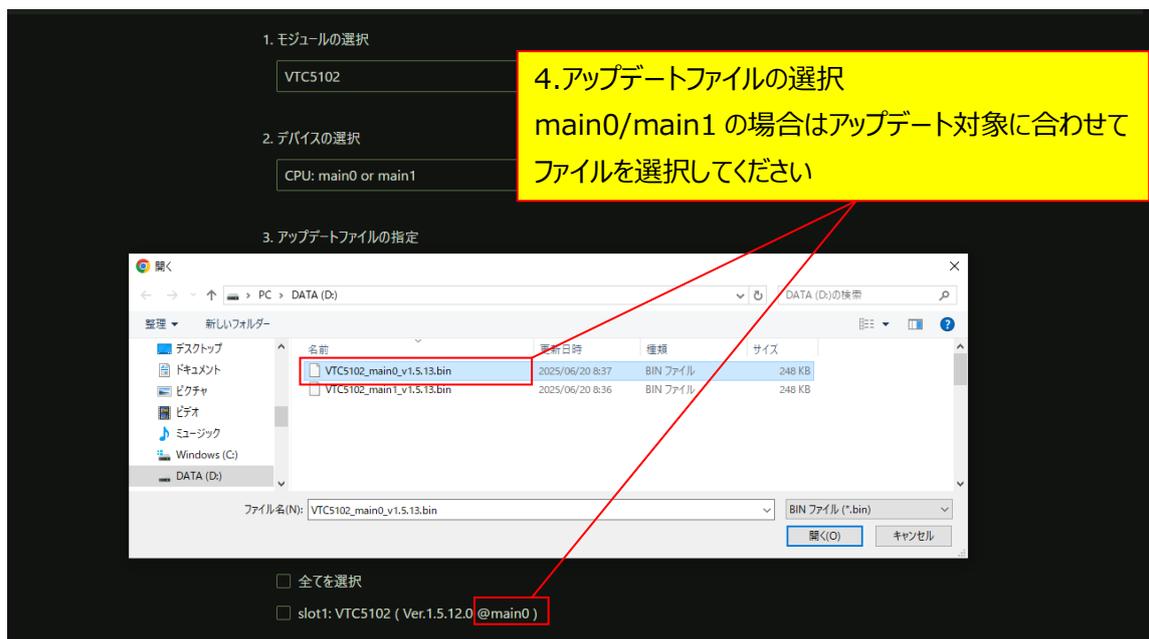


図 5-56 アップデート ファイル選択(main0/main1)

4. アップデートファイルの選択

main0/main1 の場合はアップデート対象に合わせてファイルを選択してください。

@main0 と表示されている場合 main0 用ファイルを選択してください。

@main1 と表示されている場合 main1 用ファイルを選択してください。

※同時に main0 のファームウェアと main1 のファームウェアをアップデートすることはできません。

IV. アップデート対象を選択し、「アップデート」をクリックします。

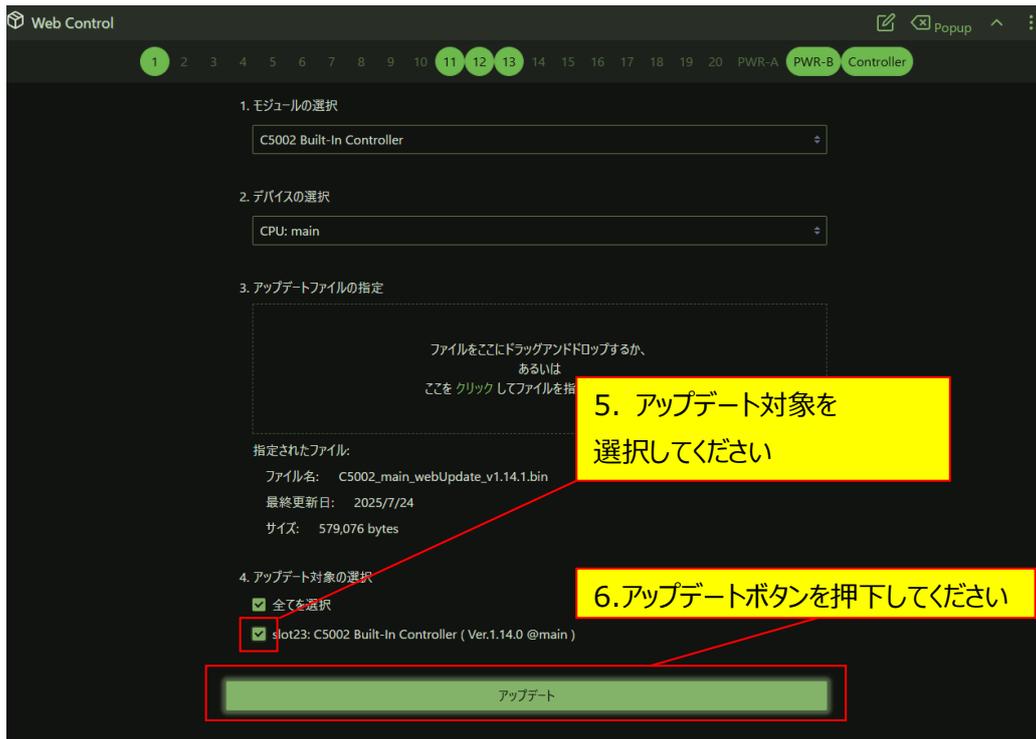


図 5-57 アップデート ボタン

5. アップデート対象の選択

アップデート対象のモジュールを選択してください。

モジュールが 1 枚しかない場合、対象 slot のモジュールを選択すると、同時に「全てを選択」にもチェックが入ります。

6. アップデートボタンを押下してください

V. ファームウェアアップデート中



図 5-58 アップデート 進行画面

VI. アップデート完了

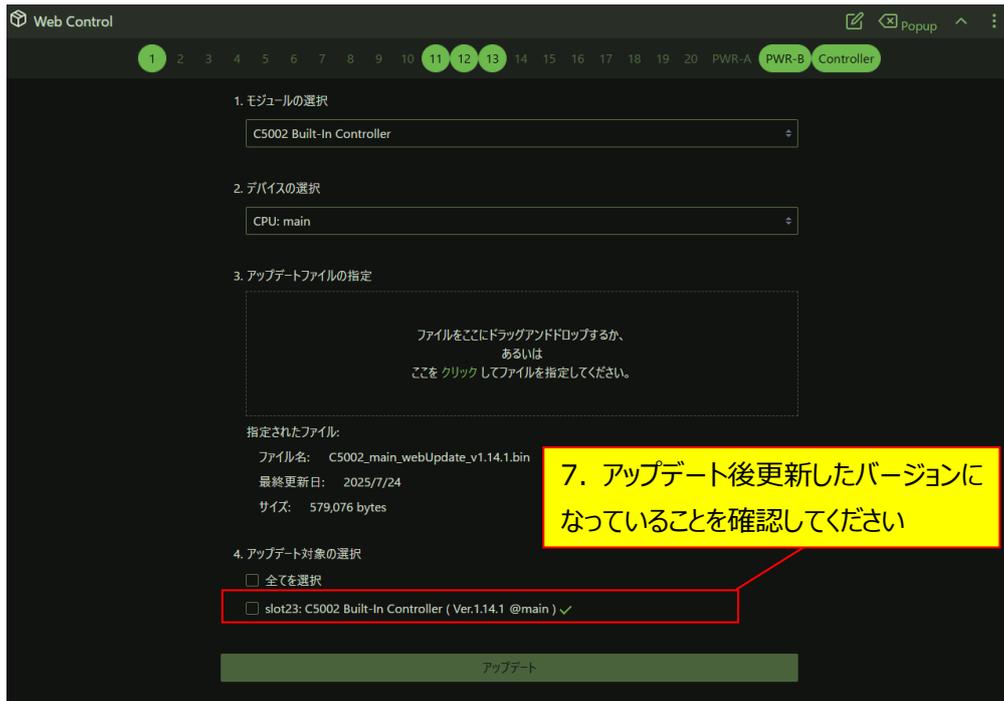
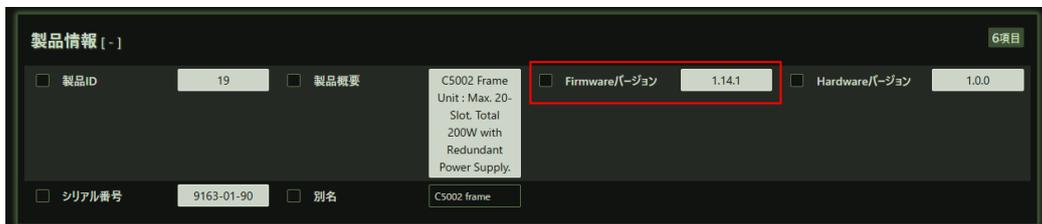


図 5-59 アップデート 完了画面

VII. Controller の製品情報で「Firmware バージョン」を確認

**フレームのファームウェアアップデートを行った場合の注意点**

WebControl バージョンが 1.5.x のパスワード非対応バージョンから、1.6.0 以降のパスワード対応バージョンにファームウェアアップデートをした場合、パスワードのリセットを行う必要があります。

5.7 パスワード設定のパスワードのリセットを行ってください。

5.7. パスワード設定

パスワードを変更します。

出荷時のパスワードは、「無し」で設定されていません。

パスワードは、「閲覧モード」から「設定モード」に切り替える際に入力しますが、「無し」の場合は入力無しに「閲覧モード」、「設定モード」に切り替わります。

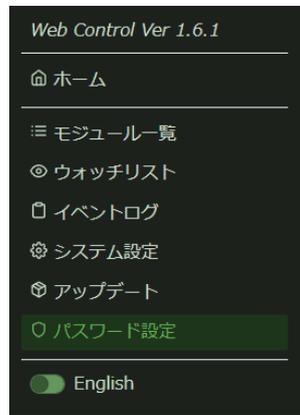


図 5-60 パスワード設定 選択

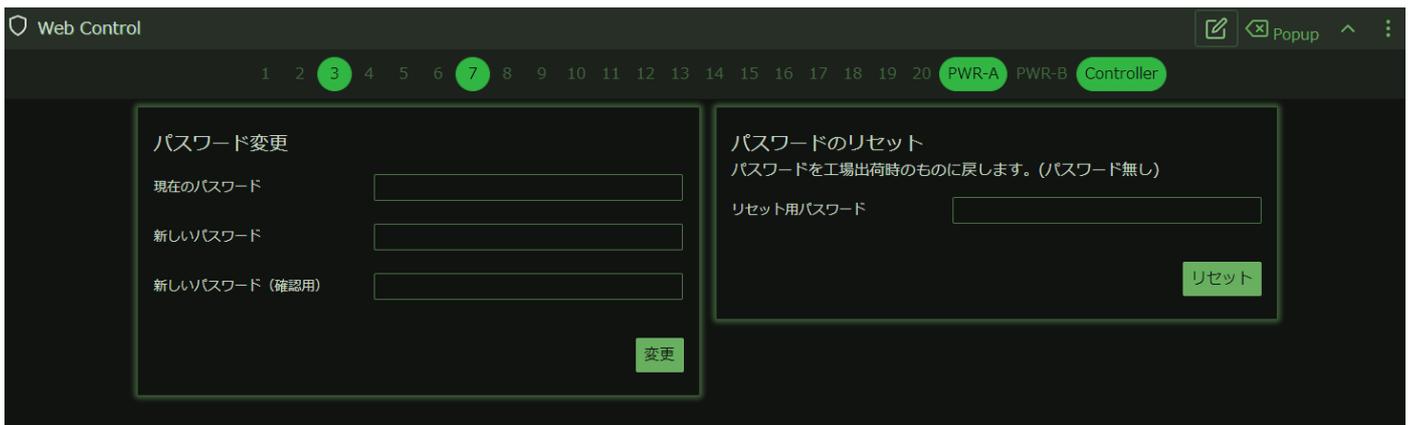


図 5-61 パスワード変更

・パスワードの変更

「現在のパスワード」、「新しいパスワード」、「新しいパスワード（確認用）」を入力します。

「現在のパスワード」の出荷時設定は以下です。(WebControl バージョンは 図 3-2 ホーム画面の右上に表示されています)

WebControl バージョン 1.4.0 以前は「**c5000-web-admin**」です。

WebControl バージョン 1.6.0 以降は「無し」です。何も入力しないでください。

入力完了後、パスワード変更の「変更」ボタンを押下することでパスワードが変更できます。

・パスワードのリセット

パスワードを出荷時設定の「無し」にします。

「リセット用パスワード」に「**force-reset-password**」を入力し、「リセット」ボタンを押下することで出荷時設定に戻ります。

WebControl バージョンが 1.5.x のパスワード非対応のバージョンから、1.6.0 以降のパスワード対応バージョンにファームウェアアップデートをした場合、パスワードのリセットを行う必要があります。

6. モジュールの設定確認・変更

モジュールの設定確認・変更は、各モジュールの取扱説明書を参照してください。

モジュール一覧表示で、設定変更あるいは設定確認を行う場合、3.2 モジュール一覧ページに従って操作してください。

6.1. パラメータ設定

パラメータ設定を変更するためには、編集モードにします。(3.3 閲覧モードと設定モード参照)

パラメータ画面で各項目を設定します。設定は即座に反映します。

マイクロSDカードにパラメータを保存するモジュールは、次回起動時に同じ設定にするためには保存ボタンを押下する必要があります。

6.2. アラート設定

モジュールの状態が変わったとき、ブラウザ左下にポップアップメッセージが表示されますが、このメッセージの表示/非表示設定を行います。

モジュール選択後、「アラート」を押下します。



図 6-1 アラート設定

抑制したいエラーメッセージのポップアップ表示を「表示」→「非表示」に変更します。

アラート設定は接続する PC のブラウザ側に保存するため、同じ PC で接続する場合、再接続後も設定は保存されます。異なる PC や異なるブラウザでフレームと接続した場合、設定は初期値設定となります。



図 6-2 モジュールパラメータの非表示

7. お問い合わせ

株式会社 コスミックエンジニアリング

Address : 〒191-0065 東京都日野市旭が丘 3-2-11

TEL: 042-586-2933 (代表)

042-586-2650 (SI 部)

FAX : 042-584-0314

URL: <https://www.cosmic-eng.co.jp/>

E-Mail: c1000@cosmic-eng.co.jp